地域研究センター年報

令和４（2022）年度　第15号

やわらかな知性を身につける。

宮崎公立大学

MMU LIBERAL ARTS

目　　次

地域研究センター長あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

令和４(2022)年度地域研究センター学年暦　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅰ　生涯教育事業

定期公開講座　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

自主講座　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16

語学講座　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　38

リカレント教育プログラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　44

開放授業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46

公民館講座　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48

その他講座・講演・講義　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　50

Ⅱ　研究事業

令和４(2022)年度　宮崎公立大学学術研究推進助成事業　・・・・・・・・・　62

Ⅲ　連携協力事業

宮崎市教育委員会等との連携協力　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　86

宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　94

宮崎商工会議所との連携協力　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　95

宮崎日日新聞社との連携協力　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　96

Ⅳ　資　料

宮崎公立大学交流センター・凌雲会館施設利用状況　・・・・・・・・・・・　114

地域貢献部会開催実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　115

Ⅴ　付　録

新聞掲載記事一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　120

新聞掲載記事　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　121

地域研究センター長あいさつ

地域研究センター長
宮崎公立大学　教授　川瀬　隆千

宮崎公立大学地域研究センター年報第 15 号の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

地域の皆様におかれましては、日頃から宮崎公立大学の地域貢献活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本学では、大学の知を広く地域社会に還元するための生涯学習事業や、地域の問題解決に貢献する創造的な研究活動などの地域貢献活動に積極的に取り組んでいます。

コロナ禍が徐々に収まり、2022 年度には、多くの地域貢献活動を対面で実施することができました。一方、コロナ禍を経験し、オンラインの良さを再認識することもできました。オンラインを適切に利用すれば、遠方の方や忙しい方も自宅にいながら講座等に参加していただくことができます。コロナ禍は講座開催方法の新しい可能性を教えてくれるものでもありました。

では、2022 年度に取り組んできた地域貢献活動についてご紹介します。

まず、定期公開講座です。本学では、毎年秋に、統一テーマに基づき複数の教員がそれぞれの専門分野の講義を行う「定期公開講座」を開講しています。2022 年度は「人と文化の諸相（アスペクト）」という統一テーマのもと、言語・文化専攻の 4 名の教員が「歴史・物語・デジャヴー“いま”振り返る近代日本の中国体験ー」（田宮昌子教授）、「大江健三郎『ヒロシマ・ノート』と原爆体験」（楠田剛士准教授）、「"Condition of England Novel"を読むー十九世紀イギリスの社会問題の普遍性ー」（村上幸大郎准教授）、「疫病なんか吹き飛ばせ！ー民衆の創造性ー」（永松敦教授）というテーマで人と文化のさまざまな側面を論じました。定期公開講座を対面で実施することができたのはたいへん嬉しいことでした。地域の皆さまを中心に延べ 130 人の参加を得ることができました。

語学講座はオンラインで実施しました。英語中級、中国語初級、韓国語初級の各講座を、5 月からそれぞれ 20 回開催しました。英語中級講座は本学のスコット・ビンガム准教授が講師を務め、中国語初級講座は日中文化交流促進部の学生が、また、韓国語初級講座は韓国文化研究部の学生が

講師を務めました。画面越しではありましたが、延べ400名以上の方に参加していただき、和気あいあいと楽しく講座を実施することができました。

自主講座は本学の教員がそれぞれの専門性や問題意識のもとに展開する講座です。テーマは最近良く耳にする「データサイエンス」（西村勇特任教授）や「機械翻訳」（竹野茂教授）、「子どもの貧困」（寺町晋哉准教授）と言った内容を扱った講座や、「中高生を対象にした英語講座」（松本祐子教授）、毎年おなじみの「英語」（福田稔教授）や「ストリートウォッチング」（辻利則教授・現学長）、「ストレスと上手に付き合う」（川瀬隆千）、「宮崎と文学」（楠田剛士准教授）、「地域伝承・地域創生」（永松敦教授）など、多岐にわたります。一つ一つは小規模なものですが、本学の研究分野の広さを示し、地域の方々の興味関心に応えることができる講座だと自負しています。

また、本学では退職教員の最終講義を地域に公開しています。2022年度には有馬晋作前学長（演題：我が研究人生とは？－「地域から」をモットーに－）と竹野茂教授（演題：中津遼子著「なんで英語やるの？」の答えを探し続けて－外国語の出会い、音との出会い－）の最終講義を開催しました。本学教職員はもちろん、卒業生も駆けつけ、地域の方々、大学にゆかりのある皆様も多数参加されました。積み重ねた研究のお話、本学での思い出など、お二人からのメッセージに耳を傾けました。

更に、本学では、地域の具体的なニーズに対応するためリカレント教育にも力を入れ、リカレント教育プログラム「ホテル接客英語講座」を実施しています。2022年には、地域のホテルに勤務されている皆さまを対象に、全11回のプログラムでホテルでの接客業務に必要な英語を実践的に学ぶ講座を行い、参加された皆様から大変好評でした。今後、リカレント教育プログラムの充実を図っていきます。

ご紹介したように、2022年度はコロナの影響が一部で残りましたが、多くの講座などの地域貢献活動において、従来の形に戻すことができました。対面で実施することで、改めて人と人が向き合うことの大切さ、コミュニケーションの大切さを感じたところです。一方、オンラインを上手に使うことで、講座の可能性を広げることができることも実感しました。今後、さらに幅広い参加をいただくためにも、講座等の開催方法を検討していきたいと思います。

宮崎公立大学はこれからも知の拠点として研究の成果を地域に還元するとともに、課題解決に貢献しながら、地域のシンクタンクとしての役割を果たしていきます。宮崎公立大学の地域貢献活動への一層のご理解とご支援をお願い致します。

宮崎公立大学　2022（令和4）年度　地域研究センター学年暦

2022 Academic Calendar

4月

月		
火		
水		
木		
金	1	
土	2	
日	3	
月	4	入学式
火	5	
水	6	
木	7	
金	8	
土	9	
日	10	
月	11	
火	12	
水	13	
木	14	
金	15	
土	16	
日	17	
月	18	
火	19	
水	20	
木	21	
金	22	
土	23	
日	24	
月	25	
火	26	地域貢献部会①
水	27	
木	28	
金	29	昭和の日（閲講日）
土	30	
日		
月		
火		

5月

1		
2		
3		
4	みどりの日	
5	こどもの日	
6	振替休日	
7		
8		
9	語学講座韓国語初級①	
10	語学講座英語中級①	
11		
12	語学講座中国語初級①	
13		
14		
15		
16	語学講座韓国語初級②	
17	語学講座英語中級②	
18		
19	語学講座中国語初級②	
20		
21		
22		
23	語学講座韓国語初級③	
24	語学講座英語中級③	
25		
26	語学講座中国語初級③	
27		
28		
29		
30	語学講座韓国語初級④	
31	地域貢献部会② 語学講座英語中級④	

6月

1		
2	語学講座中国語初級④	
3		
4		
5		
6	語学講座韓国語初級⑤	
7	語学講座英語中級⑤	
8		
9	語学講座中国語初級⑤	
10		
11		
12		
13	語学講座韓国語初級⑥	
14	語学講座英語中級⑥	
15		
16	語学講座中国語初級⑥	
17		
18		
19		
20	語学講座韓国語初級⑦	
21	語学講座英語中級⑦	
22		
23	語学講座中国語初級⑦	
24		
25	オープンキャンパス	
26		
27		
28	語学講座英語中級⑧ 地域貢献部会③	
29		
30	語学講座中国語初級⑧	

7月

月		
火		
水		
木		
金	1	
土	2	
日	3	
月	4	語学講座韓国語初級⑧
火	5	
水	6	
木	7	語学講座中国語初級⑨
金	8	
土	9	
日	10	
月	11	語学講座韓国語初級⑨
火	12	語学講座英語中級⑨
水	13	
木	14	語学講座中国語初級⑩
金	15	
土	16	
日	17	
月	18	語学講座韓国語初級⑩
火	19	語学講座英語中級⑩
水	20	
木	21	
金	22	
土	23	
日	24	
月	25	
火	26	地域貢献部会④
水	27	
木	28	
金	29	西村特任教授 自主講座
土	30	
日	31	
月		
火		

8月

1		
2		
3		
4		
5		
6		
7	オープンキャンパス	
8		
9		
10		
11	山の日	
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22	竹野教授　自主講座	
23	福田教授　自主講座	
24		
25		
26		
27		
28		
29	竹野教授　自主講座	
30	地域貢献部会⑤	
31		

9月

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	敬老の日
20	
21	
22	
23	秋分の日
24	松本教授　自主講座
25	
26	
27	地域貢献部会⑥
28	
29	
30	田宮教授 定期公開講座

宮崎公立大学　2022（令和4）年度　地域研究センター学年暦

2022 Academic Calendar

１０月

月		
火		
水		
木		
金		
土	1	
日	2	
月	3	語学講座韓国語初級⑪
火	4	語学講座英語中級⑪
水	5	
木	6	語学講座中国語初級⑪
金	7	楠田准教授 定期公開講座
土	8	
日	9	
月	10	スポーツの日(開講日) 語学講座韓国語初級⑫
火	11	語学講座英語中級⑫
水	12	
木	13	語学講座中国語初級⑫
金	14	村上准教授 定期公開講座
土	15	
日	16	
月	17	語学講座韓国語初級⑬
火	18	語学講座英語中級⑬
水	19	
木	20	語学講座中国語初級⑬
金	21	凌雲祭準備（休講）
土	22	凌雲祭
日	23	凌雲祭
月	24	凌雲祭撤収（休講）
火	25	語学講座英語中級⑭
水	26	
木	27	語学講座中国語初級⑭
金	28	永松教授 定期公開講座
土	29	
日	30	
月	31	語学講座韓国語初級⑭
火		

１１月

1		
2		
3	文化の日	
4		
5		
6		
7	語学講座韓国語初級⑮	
8	語学講座英語中級⑮	
9		
10	西村特任教授自主講座 語学講座中国語初級⑮	
11		
12		
13		
14	語学講座韓国語初級⑯	
15	語学講座英語中級⑯	
16	辻教授(現学長)　自主講座	
17	西村特任教授自主講座 語学講座中国語初級⑯	
18		
19		
20		
21	語学講座韓国語初級⑰	
22	語学講座英語中級⑰	
23	勤労感謝の日(開講日)	
24	西村特任教授自主講座 語学講座中国語初級⑰	
25		
26		
27		
28	語学講座韓国語初級⑱	
29	地域貢献部会⑦	
30		

１２月

1	語学講座中国語初級⑱	
2		
3	寺町准教授　自主講座	
4		
5	語学講座韓国語初級⑲	
6	辻教授(現学長)　自主講座 語学講座英語中級⑱	
7		
8	辻教授(現学長)　自主講座 語学講座中国語初級⑲	
9		
10		
11		
12	語学講座韓国語初級⑳	
13	語学講座英語中級⑲	
14		
15	語学講座中国語初級⑳	
16		
17		
18		
19		
20	語学講座英語中級⑳	
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		

１月

月		
火		
水		
木		
金		
土		
日	1	元日
月	2	
火	3	
水	4	
木	5	
金	6	
土	7	
日	8	
月	9	成人の日
火	10	
水	11	
木	12	
金	13	
土	14	
日	15	
月	16	
火	17	地域貢献部会⑧
水	18	
木	19	
金	20	
土	21	
日	22	
月	23	
火	24	
水	25	
木	26	
金	27	
土	28	
日	29	
月	30	
火	31	

２月

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	建国記念日
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	川瀬(隆)教授 自主講座
22	
23	天皇誕生日
24	
25	
26	
27	
28	

３月

1	地域貢献部会⑨
2	
3	
4	
5	楠田准教授　自主講座
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	永松教授　自主講座
19	
20	
21	春分の日
22	
23	
24	卒業式
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	

Ⅰ　生　涯　教　育　事　業

＊定　期　公　開　講　座

＊自　　主　　講　　座

＊語　　学　　講　　座

＊リカレント教育プログラム

＊開　　放　　授　　業

＊公　　民　　館　　講　　座

＊その他講座・講演・講義

令和4(2022)年度　定期公開講座

全体テーマ：　人 と 文 化 の 諸 相（アスペクト）			
講義	日　時	講　座　演　題	講　　師
第1回	9月30日（金）18時30分～20時00分	開講あいさつ	竹野 茂 地域研究センター長
		歴史・物語・デジャヴ ― “いま”振り返る近代日本の中国体験 ―	宮崎公立大学 教授　田宮　昌子
第2回	10月7日（金）18時30分～20時00分	大江健三郎『ヒロシマ・ノート』と原爆体験	宮崎公立大学 准教授　楠田　剛士
第3回	10月14日（金）18時30分～20時00分	“Condition of England Novel”を読む ― 十九世紀イギリスの社会問題の普遍性 ―	宮崎公立大学 准教授　村上　幸大郎
第4回	10月28日（金）18時30分～20時00分	疫病なんか吹き飛ばせ！ ― 民衆の創造性 ―	宮崎公立大学 教授　永松　敦
		閉講あいさつ	竹野 茂 地域研究センター長

宮崎公立大学　定期公開講座　（ 第１回講座 / 全４回 ）

実施日時	令和４年９月30日（金）　18時30分～20時00分
会　　場	宮崎公立大学　103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	38名
配付資料等	各講座資料等

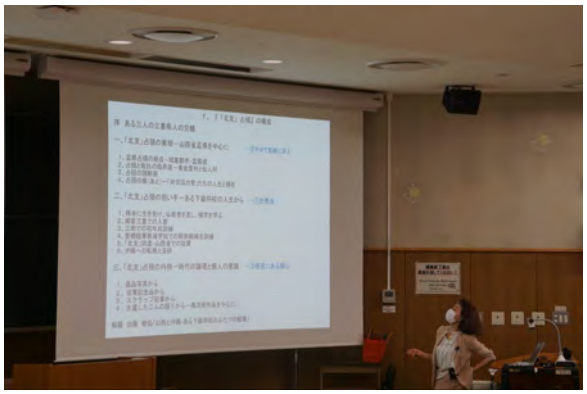
担当講師	演　　題
宮崎公立大学 教授　田宮　昌子	歴史・物語・デジャヴ ― “いま”振り返る近代日本の中国体験 ―

【講座内容】

今年度の公開講座のテーマについて検討が始まった頃、世界はウクライナ紛争勃発の衝撃の中にあった。国際文化学科を主軸とする本学に地域の皆さまが期待されるであろうことに言語・文化専攻の講師陣でどう応えるかという議論の中で思いがけなく講師として私にも声が掛った。私は本学では中国の言語と文化を教授しており、漢文化を中心とした中国の「文の伝統」を主な研究領域としている。国際紛争など門外漢の私に白羽の矢が立ったのは、かつて日中戦争に従軍した親族の遺品を、主に山西省従軍期の写真を中心に、日中双方での裏付け調査を加えて公開したことがあったためのようである（『「北支」占領その実相の断片』社会評論社、2015年）。そこで、今回は当該書を基盤としながら、日本近代が中国と持ってきた関係をも振り返りつつ、今日感じる既視感についても考える場としてみたい。

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

・中国大陸での日中戦争の内容が細かく説明があり、従軍された人々の話をわかりやすく講座内で色付けが見やすく勉強になりました。
・槙峰事件に関わっていた人たちに話を聞いたことがあるので興味深く聞きました。
・今まで知らなかった戦時中の実際の状況を様々な資料を通して知ることができて良かった。
・これまで本や映像でしか理解してなかった中国の戦時的日常が知られ良かった。
・中国で体験されたことを今後も伝えていっていただければ良いと考えます。



宮崎公立大学　定期公開講座　（ 第 2 回講座 / 全 4 回 ）

実施日時	令和 4 年 10 月 7 日（金）　18 時 30 分～20 時 00 分
会　　場	宮崎公立大学　103 大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100 名
受講者	30 名
配付資料等	各講座資料等

担当講師	演　　題
宮崎公立大学 准教授　楠田　剛士	大江健三郎『ヒロシマ・ノート』と原爆体験

【講座内容】

大江健三郎（1935-）は、1957 年のデビュー以来多くの小説を発表し注目されてきた、戦後日本文学を代表する作家です。芥川賞受賞作の「飼育」、知的障害をもって生まれた子供とのかかわりを描く「個人的な体験」などの小説や、1994 年にノーベル文学賞を受賞したことなどが知られていますが、小説以外でもエッセイ、旅行記、文学論も多く著わしてきました。なかでも被爆地広島を取材した『ヒロシマ・ノート』（岩波新書、1965）は増刷を重ね、近年でも電子化や改版など新しい読書の場がつくられています。1960 年代当時の政治や社会を背景に書かれていますが、発表後 60 年近く経っても被爆者の抱える問題や核兵器の脅威は解決していません。講座ではウクライナの原発やコロナ禍などの現代の情勢とも重ねながら、『ヒロシマ・ノート』が描く原爆体験の諸相をお話したいと思います。

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

・組合活動の一環で今年の8月6日に広島に赴きました。あの時自身が感じたことを補完するという意味で本講義に参加しました。大変満足のいく講義であったことは言うまでもありません。実際に現地に赴く以外にもヒロシマのことを知るきっかけを教えていただいたように感じます。

・私たちが大江に親しみが深まらないのは日本人、日本社会の曖昧さと論理的な意向の違いを克服できない課題を自覚せずには大江を理解できないと感じた。

・名前は何度もきいて知っていましたが、実際に読んだことはなかったので、今回はとても勉強になりました。原爆について関心があるので、ぜひ読んでみたいと思いました。

宮崎公立大学　定期公開講座　（ 第 3 回講座 / 全 4 回 ）

実施日時	令和 4 年 10 月 14 日（金）　18 時 30 分～20 時 00 分
会　　場	宮崎公立大学　103 大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100 名
受講者	38 名
配付資料等	各講座資料等

担当講師	演　　題
宮崎公立大学 准教授　村上　幸大郎	“Condition of England Novel”を読む ― 十九世紀イギリスの社会問題の普遍性 ―

【講座内容】

ヴィクトリア女王の統治する十九世紀イギリスは産業の発展により世界一の繁栄を誇った時代ではありますが、同時に公害や格差問題など、多くの社会問題が生じた時期でもありました。現在 Condition of England Novel と分類される小説はこれらの社会問題の深刻さを訴え、社会の改善を実現しようとする作品です。今回の講座ではチャールズ・ディケンズの『ハード・タイムズ』やエリザベス・ギャスケルの『北と南』などを中心に概観し、ヴィクトリア朝の文学は浮世離れしたものではなく、現実の問題と不可分であったこと、そして小説でテーマとなる諸問題は現代の日本が抱える問題に通底するものがあることなどを考えてみたいと思っています。

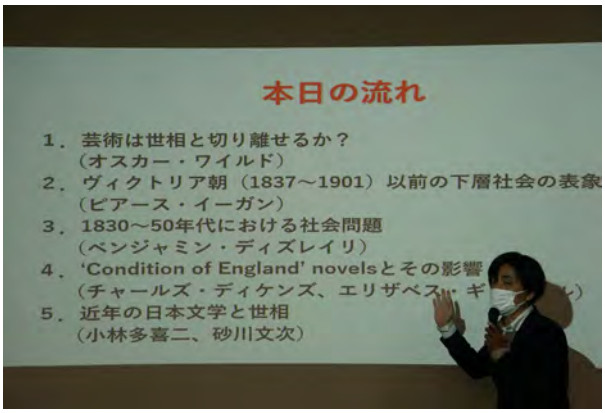
【受講者感想　※アンケートから抜粋】

・講座を聴くことで、文学の奥深さに気づかされた。その時代の背景を理解することでその作品の理解度が全く違ったものになると思った。19世紀の文学と思って来たが普遍的なものだと感じた。

・現代社会の問題は昔の歴史や作品から学び解決できる部分があるのだと知った。英文の小説はハードルが高いと感じたので、ブラックボックスなど現代の小説から読んで関心を深めていきたい。

・いろいろな文学作品の一節を紹介頂き文学から社会の問題を見通すその時代の人々の偏見や教え方を知る面白さを教えて頂きました。

・90分の時間で上手に説明していただきました。こういう機会がないと、19世紀イギリス文学を学ぶ機会はないでしょうね。



宮崎公立大学　定期公開講座　（ 第４回講座 / 全４回 ）

実施日時	令和４年10月28日（金）　18時30分～20時00分
会　　場	宮崎公立大学　130大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	24名
配付資料等	各講座資料等

担当講師	演　　題
宮崎公立大学 教授　永松　敦	疫病なんか吹き飛ばせ！ ― 民衆の創造性 ―

【講座内容】

今、コロナ禍において、自由に行動ができず、様々なイベントが中止、あるいは縮小され、快楽の機会が少ない状態が何年も続いています。でも、長い時間軸で見た場合、本当に民衆は今のように行動を制限し、何も活動できない状態でいたのでしょうか？京都の祇園祭りや博多祇園など、あのド派手な祭礼は病気平癒を願って生み出された行事でした。幕末に流行したコレラのときも、疫病と戦いながら、生活の楽しみを生み出し、お互いを励まし合ってきたのです。どんなに困難な時代にあっても、民衆を生きる希望を捨てなかった。そのたくましさを「遊び」を通してみていくことにいたしましょう。

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

・地元のことも全く知らないことばかりでした。とても興味があるので今度調べてみたいと思いました。

・宮崎市に移り住んで1年です。今日のお話をきいて、なんだかステキな場所に住んでいるんだという気持ちになり感謝です。

・文化財や歴史に関心があり学生時代には奈良におりました。久々に「宮崎」に対するワクワクが湧きました。

・民族学はとても興味深くておもしろいと感じました。宮崎に住んでいて長いですが、知らないことばかりでした。「かや」の話は興味深かったです。

定期公開講座フライヤー

令和4年度　宮崎公立大学　定期公開講座

受講料
無料

アスペクト

人と文化の諸相

広く地域に開かれた大学として、生涯学習の振興及び文化の向上に貢献することを目的に、公開講座を開講します。
今年度は言語・文化専攻所属の教員が講師となり全4回の講座を実施します。
この機会に本学の講座を体験してみませんか？

【担当講師】

第1回	田宮　昌子	宮崎公立大学 教授
第2回	楠田　剛士	宮崎公立大学 准教授
第3回	村上　幸大郎	宮崎公立大学 准教授
第4回	永松　敦	宮崎公立大学 教授

【日程】
令和4年度　9月30日～10月28日
全4回・毎週金曜日（10月21日は除く）

【時間】
18時30分～20時

【会場】
宮崎公立大学　103大講義室

【定員】
100名（事前予約制）

宮崎公立大学

詳しくは裏面または
ウェブサイトをご覧下さい。

注意事項

※ 新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、オンライン（Zoom）となる可能性があります。
予めご了承ください。

※ お申込み受付後、特にご連絡は致しませんので、当日会場にお越しください。
但し、オンライン（Zoom)実施となる場合は、事前に宮崎公立大学地域研究センターよりメールにて
ご連絡いたします。

※ 新型コロナウイルス感染防止対策のため、事前予約制といたします。ご来場の際はマスク着用をお願いいたします。
ご予約のない方の当日受け付けはいたしませんので、予めご了承ください。

宮崎公立大学　地域研究センター

定期公開講座フライヤー

令和4年度　宮崎公立大学　定期公開講座

人と文化の諸相（アスペクト）：各日程のテーマ・講師

第1回 9/30 （金）	歴史・物語・デジャヴ －“いま”振り返る近代日本の中国体験－ 宮崎公立大学　教授　田宮　昌子
第2回 10/7 （金）	大江健三郎『ヒロシマ・ノート』と原爆体験 宮崎公立大学　准教授　楠田　剛士
第3回 10/14 （金）	“Condition of England Novel”を読む －十九世紀イギリスの社会問題の普遍性－ 宮崎公立大学　准教授　村上　幸大郎
第4回 10/28 （金）	疫病なんか吹き飛ばせ！ －民衆の創造性－ 宮崎公立大学　教授　永松　敦

申込方法

（講座期間中も受け付けいたします。1講座だけの受講も可能です。）

郵便・FAX・メールのいずれかの方法で、
以下の事項を宮崎公立大学地域センター宛、お申込みください。

①受講希望日　②氏名（ふりがな）　③住所
④連絡が取れる電話番号　⑤メールアドレス

注意事項

※ 新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、オンライン（Zoom）となる可能性があります。
予めご了承ください。

※ お申込み受付後、特にご連絡は致しませんので、当日会場にお越しください。
但し、オンライン（Zoom)実施となる場合は、事前に宮崎公立大学地域研究センターよりメールにて
ご連絡いたします。

※ 新型コロナウイルス感染防止対策のため、事前予約制といたします。ご来場の際はマスク着用をお願いいたします。
ご予約のない方の当日受け付けはいたしませんので、予めご了承ください。

お申込み・お問合せ先

宮崎公立大学地域研究センター
〒880-8520　宮崎市船塚1丁目58　凌雲会館２階
TEL：0985-20-4772　　FAX：0985-20-4773
メール：mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp
受付時間：平日9:00～17:00

令和4年度　自主講座一覧

	開催日時	開催者名	講座名
1	7月29日(金) 18:30～20:30	特任教授 西村　勇	数式なしで楽しく理解する データサイエンス
2	8月23日(火) 13:30～16:00	教授 福田　稔	インターネットと辞書で学ぶ 英単語の使い分け
3	8月22日(月) 8月29日(月) 18:00～20:00	教授 竹野　茂	英語を使いたい人のための機械翻訳活用法
4	9月24日(土) 10:00～12:00	教授 松本　祐子	中高生のための「使える英語」講座
5	11月10日(木) 11月17日(木) 11月24日(木) 18:30～20:00	特任教授 西村　勇	音声表現講座 「朗読はバクハツだ！」
6	11月16日(水) 12月6日(火) 12月8日(木) 8:00～13:00	教授 辻　利則 (現学長)	教育機関・地域と連携した防災教育 （第12回ストリートウオッチング）
7	12月3日(土) 14:00～17:00	准教授 寺町　晋哉	「子どもの貧困」を考える
8	2月21日(火) 18:30～20:30	教授 川瀬　隆千	ストレスと上手付き合う心理学 困難を乗り越えるために
9	3月5日(日) 10:00～12:00	准教授 楠田　剛士	宮崎と文学 ―遠藤周作「無鹿」を読む―
10	3月18日(土) 13:30～15:30	教授 永松　敦	地域伝承と地域創生 ―地域伝説を手掛かりに―

講　座　名	数式なしで楽しく理解するデータサイエンス	
実施日時等	令和 4 年 7 月 29 日（金）　18 時 30 分～20 時 30 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　交流センター　多目的ホール	
講　　師	宮崎公立大学　特任教授　西村　勇	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト 3 名	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募 集 定 員	20 名程度	
対　　象	高校生以上	
受 講 者 数	23 名	

【講座の内容】

近年注目されているデータサイエンスの入門編として開催した。データサイエンスのトピックスから、近年実用された事例を紹介した。その後、歴史的なデータサイエンス実例として「天気予報」を題材にどんな準備が必要か理解を深め、データサイエンスで行える解析を「確立」、「順番付」、「分類」、「理由」の 4 つに絞り、解析事例について検討した。

データサイエンスの技術者だけでなく、データを取り巻く社会の人々がその活動について議論に参加することが必要だということを共有した。

最後にデータ活用の際に気を付けていきたいこととして、「個人情報の取り扱い」、「調査におけるサンプリング手法」、「はずれ値」についての説明を行った。

【講座風景写真】

【講師コメント】

台風による影響で天候が悪い中、高校生から 70 歳代の方まで参加頂き、幅広い層でデータサイエンスに興味を持たれていることが実感でき、社会の「知りたい」というニーズがあることがわかった。なかなか難しい分野だと敬遠されがちなカテゴリーであるので、実例を多く紹介するとともに、「天気予報」の歴史を振り返り身近なところでデータサイエンスの活用を実感してもらい、データを活用するための目的や準備、気にすることなど生活者の視点から考えてもらえるような講座とした。

これからのデータ社会は、データ解析等を行う人々だけのものではなく、社会全体でデータの活用についての議論を行っていく必要があると考えています。講座後のアンケートでは「データの解析を行いたい」、「データを活用して未来を知りたい」、「農業の収穫へ活用したい」等の感想をいただいた。参加されたみなさんの「データ利用の第一歩」になったのであれば嬉しく思います。

自主講座フライヤー

そう言うこと?
数式なしで楽しく理解する
データサイエンス
宮崎公立大学自主講座
興味はあるけど難しそう…
DX　AI　ビッグデータ
ダメ! ダメッ!怖い わからない!
という皆さん いろいろな事例で
学んでみましょう!
講師：西村　勇
宮崎公立大学　特任教授
こんな方にオススメ
データ活用ってなんなのよ!
データを使って企画してみたいな
あっという間にデータ活用の世の中に・・・
今までデータについて学んでないし、専門家しかできないでしょ? でも、ちょっと理解してみたいな。
上司もエビデンスとか言ってるし。
そんなみなさん!一緒に一歩踏み出してみましょう。
※モバイル機器等がなくても受講は可能ですが、モバイル機器等をお持ちの方はご持参ください。
令和4年
7月29日（金）
18時30分～20時30分
対象・定員：高校生以上20名程度
受講料：無料　（申込多数の場合は抽選）
（ご来場の際はマスク着用でお願いします。）
会場
交流センター多目的ホール
（キャンパスの北側にあるT-階建ての建物です。）
グラウンド・体育館
交流センター 凌雲会館
キャンパス
公立大学前
江平一丁目
原町
宮崎大学 附属小・附属中
花殿町
申込方法
申込フォームよりお申込みください。
申込フォームURL
https://forms.gle/g8KZzPxePfaUTMuQ7
（ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。）
申込締切　7月19日（火）
申込フォーム
ご注意
※新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオンライン(Zoom)実施または中止となる可能性があります。
オンライン(Zoom)実施または中止となる場合は、事前に宮崎公立大学地域研究センターよりご連絡いたします。
お問合せ先　宮崎公立大学地域研究センター（凌雲会館2階）TEL:0985-20-4772（土・日・祝日を除く9:00～17:00）

講　座　名	インターネットと辞書で学ぶ英単語の使い分け	
実施日時等	令和4年8月23日（火）13時30分～16時00分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　マルチメディア第1講義室	
講　　師	宮崎公立大学　教授　福田　稔	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト1名	
受　講　料	無料	
配付資料等	講座では、パワーポイント・スライドを印刷した資料を各受講生に配布し、パソコン画面で示しながら説明した。	
募集定員	20名	
対　　象	英語に関心のある市民、教員、学生、生徒	
受講者数	7名	

【講座の内容】

英語辞書は極めて有用な学習ツールです。インターネットも活用することで、日英語の違いについて、深く学べることを言語学や認知科学の観点から説明しました。

前半では、「みる」を意味する see / look /watch を取り上げて、簡単なクイズを解き、英和辞典やインターネット辞書を使って、使い分けを確認しました。また、データ集コーパスや、歴史的な意味変遷にも触れました。後半では、前置詞 on / over / above を取り上げて、インターネット辞書で意味の違いを確認し、反意語を調べる課題に取り組んで頂きました。

多少でも手間隙をかける方が深く学べます。継続可能で、自分に合った学習法を見つけることも大切だと結論付けました。

【講座風景写真】

【講師コメント】

英語学習のための教材や学習法は多様化しています。実態としては、「溢れかえっている」とさえ感じることもあります。ただ、英語学習への関心は高いのですが、実際に取り組んでいる人の割合は少ないというアンケート調査があります。そこで、学習者にとって必要となるのが、継続可能で、合理的な学習法を見つけることです。

しかし、わかりやすい説明を受けるだけでは、知識として残らないという認知心理学からの指摘があります。ある程度、手間隙をかける「深い」学習が必要になるのです。本講座では、その一例として、身近にある（紙の）英和辞典と、無料で気軽に使えるインターネット辞書を（複数）使った学習法を紹介しました。

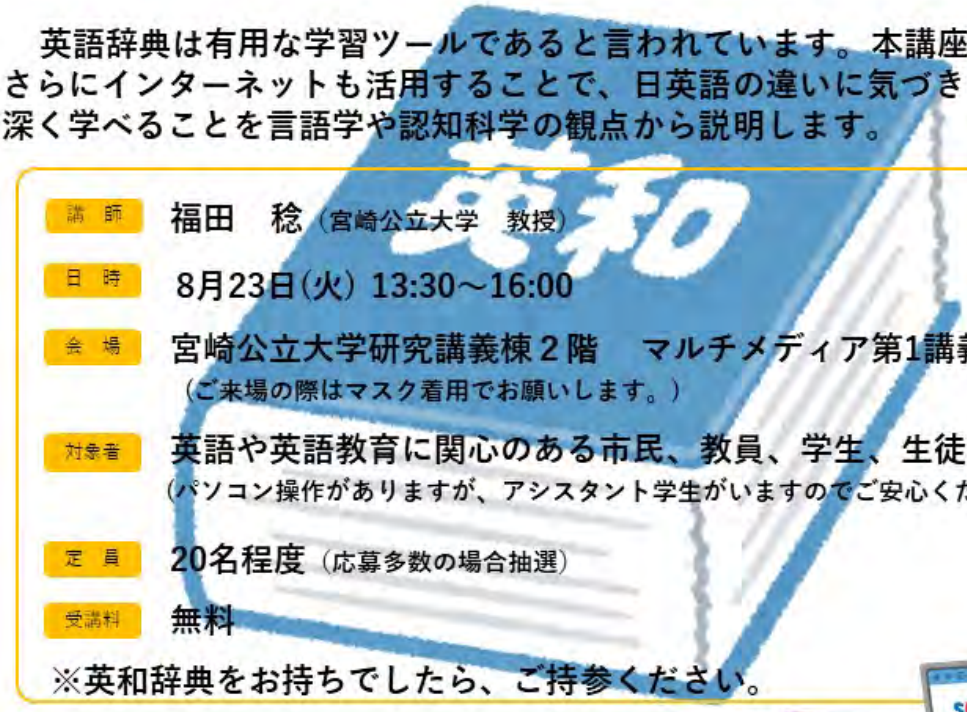
受講生は熱心に参加して下さいました。アンケート回答から、講座で紹介したインターネット辞書サービスが、あまり知られていないようでした。今後は、類似したトピックで、中高生を対象とした講座を企画することも検討したいと思います。

自主講座フライヤー

宮崎公立大学自主講座

インターネットと辞書で学ぶ英単語の使い分け

英語辞典は有用な学習ツールであると言われています。本講座では、さらにインターネットも活用することで、日英語の違いに気づきながら、深く学べることを言語学や認知科学の観点から説明します。



講師 福田　稔（宮崎公立大学　教授）

日時 8月23日(火) 13:30～16:00

会場 宮崎公立大学研究講義棟２階　マルチメディア第1講義室
（ご来場の際はマスク着用でお願いします。）

対象者 英語や英語教育に関心のある市民、教員、学生、生徒
（パソコン操作がありますが、アシスタント学生がいますのでご安心ください。）

定員 20名程度（応募多数の場合抽選）

受講料 無料

※英和辞典をお持ちでしたら、ご持参ください。

申込方法

申込QRコードよりお申込みください。
URL：https://forms.gle/7whncNcV8Rub5eFP9
（ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。）

申込締切　8月14日（日）

申込QRコード

ご注意

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオンライン(Zoom)実施または中止となる可能性があります。
オンライン(Zoom)実施または中止となる場合は、事前に宮崎公立大学地域研究センターよりご連絡いたします。

お問合せ先　宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館２階）TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail　mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講　座　名	英語を使いたい人のための機械翻訳活用法	
実施日時等	令和４年８月 22 日、29 日（月）18 時 00 分～20 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　マルチメディア第２講義室	
講　　師	宮崎公立大学　教授　竹野　茂	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト２名	
受　講　料	無料	
配付資料等	講座では、パワーポイントで作成した資料を配布の上、パソコン画面をプロジェクターで表示しながら説明をし、受講者にも PC の操作をしてもらいながら、話を進めた。	
募集定員	20 名	
対　　象	英語学習者（中・高・大学生・大人）	
受講者数	のべ　22 名	

【講座の内容】

・8/22　最初に受講者一人ひとりに、受講の動機、機械翻訳についてどのように考えているのかを尋ねてから始めた。機械翻訳に用いる３つのツール（Google Translate, DeepL、みらい翻訳）を示した上で、それぞれの翻訳がどのような訳文（日本語→英語）を輩出するかを示した。その後、機械翻訳の仕組みについて、簡潔な説明を行った。「機械翻訳の出現により外国語（特に英語）学習は必要なくなるのか」という問題について考えた。その上で、機械翻訳をツールとして上手に便利に使うためには、外国語の知識が必要であると主張した。説明後に、それぞれの翻訳がどのようになるのかを、日本語の文学作品の冒頭部分を機械翻訳にかけるとどのようになるのかを参加者に実演してもらった。

・8/29「自動翻訳の訳出精度を上げるコツ」を実際に受講生にやってもらいながら体得してもらう形式をとった。

また、「イチローの野球殿堂入りの際のスピーチ」を取り上げ、動画から Google Translate の音声認識機能を利用して文字化しそれを自動翻訳する実演を交えた。

上記のコツでは、日本語から英語への翻訳、また、英語のことわざや日常会話に使える表現を用いて日本語に機械翻訳することで、英語学習の補助的な考え方を示した。

【講座風景写真】

【講師コメント】
参加者には、実際に業務に近いところで機械翻訳(MT)を利用されている人も参加されていた。その方は google 翻訳について「初期は全く使い物にならなかったが、最近はかなり進歩した」という感想を話していた。その話を受けて、なぜ翻訳精度が高くなったかについて、MT の仕組みに言及して理解を深めた。また、高校生も多く参加されていたので、機械翻訳の技術を英語学習に活かす観点で話を進めた。機械翻訳の便利さと、機械翻訳の誤訳に気づく英語力（語学力）の必要性について、主に力説した。

1 回目は、総論を話したので、2 回目は実際に受講者に日本語→英語、英語→日本語の機械翻訳を体験してもらいながら進めた。機械翻訳だけでなく、英語の使い方や学習法についても言及し、飽きさせない工夫をした。機械翻訳というと兎角文字列の変換だけになってしまうが、音声入出力や実際の YouTube で閲覧できるスピーチを使った音声→文字変換方法などにも言及した。タイムリーにも第 2 回目の前日に「イチローの野球殿堂入りの際のスピーチ」があり、その映像を用いて、スピーチの文体にも言及しながら、受講者に楽しんでもらうことを考えた。

アンケートでも指摘があったが、2 回とも 2 時間ぶっ続けで行ったので、休憩を組み込んでおけばよかったと思う。

配布資料

1.2　PowerPoint の資料（1 回目、2 回目）

3　自動翻訳の訳出精度が劇的に向上する代表的なテクニック 10 選（日本語→英語用）

4　ことわざ、日常会話編文例（英語→日本語用）

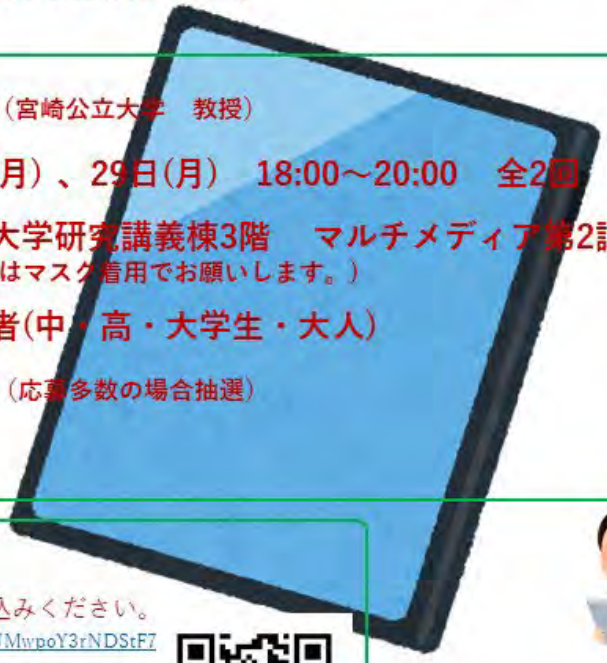
5　Ichiro’s speech at the ceremony of “Hall of Fame”（「イチローの野球殿堂入りの際のスピーチ」を中心にセレモニーで話された英語を講師自らが Google Translate を利用しながらトランスクライブ＜文字起こし＞した資料）

自主講座フライヤー

宮崎公立大学自主講座

英語を使いたい人のための機械翻訳活用法

2日間に分けて英語学習者、英語を職業上使う必要のある人がより早く、より良い英語表現を使えたり、より早く英語で書かれた情報を読み取るための機械翻訳術を伝授します。



講師	竹野　茂（宮崎公立大学　教授）
日時	8月22日(月)、29日(月)　18:00～20:00　全2回
会場	宮崎公立大学研究講義棟3階　マルチメディア第2講義室 （ご来場の際はマスク着用でお願いします。）
対象者	英語学習者(中・高・大学生・大人)
定員	20名程度（応募多数の場合抽選）
受講料	無料

申込方法

申込QRコードよりお申込みください。
URL：https://forms.gle/NHiUMwpoY3rNDStF7

（ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。）

申込締切 8月7日（日）

申込QRコード

ご注意

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオンライン(Zoom)実施または中止となる可能性があります。
オンライン(Zoom)実施または中止となる場合は、事前に宮崎公立大学地域研究センターよりご連絡いたします。

お問合せ先　宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館2階）TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail　mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講　座　名	中高生のための「使える英語」講座	
実施日時等	令和 4 年 9 月 24 日（土）　10 時 00 分～12 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　103 大講義室	
講　　師	宮崎公立大学　教授　松本　祐子	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト 2 名	
受　講　料	無料	
配付資料等	ワークシート	
募 集 定 員	30 名	
対　　象	英語学習者	
受 講 者 数	22 名	

【講座の内容】

中高生を対象に「使える英語」に関する講座を実施。

講座の前半は、「使える英語とは？」「単語や文法のコアとは？」ということについて、認知科学の観点から事例を交えて解説した。更に、前置詞「at, on, in」に関するコアの意味を考え、練習問題に取り組み、分からない箇所はグループメンバーと協同で取り組んだ。

講座の後半は、実践活動を 2 つ行った。まず「自分の誕生会を企画する」という活動で、既習の「at, on, in」を使う質問を用意し、パートナーと英語でやりとりをした。次に英字新聞を用い、既習の「at, on, in」が実際どのような使われ方をしているのか、ワークシートに書き出し、学習したコアイメージに照らし合わせて確認した。

【講座風景写真】

【講師コメント】

受講生の殆どが高校生（社会人 2 人を含む）ということで、なるべく分かりやすく、基礎事項を定着させるようなレベル設定で行った。また講義だけにならないよう、ペアやグループ活動を多く取り入れ、受講生が自分から英語を使うことで、理解を深めるよう工夫した。学生アルバイトもサポートに入ってくれたので、どのペア（グループ）も比較的活発なやりとりを行えている様子だった。

自主講座フライヤー

R４年度　宮崎公立大学自主講座

中高生のための「使える英語」講座

「語彙や文法を暗記するのが大変！」と思っているみなさん、
もっと効率的に学べて、使える英語に出来る方法があります。
英語が苦手な人も、得意な人も、一緒に試してみませんか？

講師	松本　祐子（宮崎公立大学　教授）
日時	9月24日(土) 10:00～12:00
会場	宮崎公立大学研究講義棟１階　103大講義室 （ご来場の際はマスク着用でお願いします。）
対象者	英語学習者(中・高校生 *成人の方も歓迎)
定員	３０名程度（応募多数の場合抽選）
受講料	無料

申込方法：
QRコードよりお申込みください
URL：https://forms.gle/5JqByiVEVFeHjR7C7
（ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。）

申込締切：9月10日（水）

QRコード

ご注意
※新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオンライン(Zoom)実施または中止となる可能性があります。
オンライン(Zoom)実施または中止となる場合は、事前に宮崎公立大学地域研究センターよりご連絡いたします。

お問合せ先　宮崎公立大学 地域研究センター (凌雲会館２階)
TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00)
E-mail　mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講　座　名	音声表現講座「朗読はバクハツだ！」	
実施日時等	令和 4 年 11 月 10 日、17 日、24 日（木） 18 時 30 分～20 時 00 分	全　3　回
会　　場	宮崎公立大学　交流センター　多目的ホール	
講　　師	元 NHK アナウンサー　杉尾　宗紀 講座企画：宮崎公立大学　特任教授　西村　勇	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料（朗読用テキスト「チェコ SF 短編小説集」代として【1,650 円】）	
配付資料等	「朗読爆発のための四箇条」　1 枚	
募集定員	6 名	
対　　象	学生（高校生を除く）・社会人	
参加者数	のべ 13 名	

【講座の内容】

元 NHK アナウンサー杉尾宗紀氏による音声表現講座。朗読の題材として「チェコ SF 短編小説集」（平凡社）の中から、ヤロスラフ・ハシュク／Jaroslav Hašek (1883-1923)作「オーストリアの税関」を用いた。朗読爆発のための四箇条として下記に留意しながら朗読をおこなった。

①自分の本来の豊かな声で大声 X 無理しない小声から
②日本語の 9 割 9 分は母音滑舌は母音が解決する
③朗読はどこで切っても自由「どこで切るか」で個性が爆発
④作品を味わいながら読む　テイスティングが読みの極意

以上を実践することで、プレゼン力だけでなく、人前での人間力アップを目指した。

【講座風景写真】

【講師コメント】

1.5 時間×3 回で自分の声探しをして、プレゼンのベース作りを目指すという「無謀」な講座にもかかわらず、受講生に恵まれ、初日と最終日の声と読みの変わりようはまさに確変でした。

自分の声探しは、自分のコアを見つめること。その上で文章のどこで切るかを実践する事で、自分の個性を発揮することができる、つまりオリジナルな自己表現に繋がります。
朗読は対人能力アップの近道だと、改めて確認出来ました。

自主講座フライヤー

宮崎公立大学　自主講座

元NHKアナウンサーによる音声表現講座

「朗読はバクハツだ！」

～朗読力とともにプレゼン力をつけよう～

講師紹介

杉尾宗紀

昭和32年国富町生まれ　元ＮＨＫアナウンサー
報道・番組リポーターとしてオウム真理教事件
阪神淡路大震の現場を取材
東日本大震災311当日、ラジオの終夜放送を担当
俳優の故・林隆三さんと出会い朗読に開眼
各地で朗読ライブを展開中

講座企画・司会
西村　勇　宮崎公立大学　特任教授

日　時	11月10日(木)、17日(木)　、24日(木)　全3回　　18:30～20:00
会　場	宮崎公立大学　交流センター多目的ホール　(ご来場の際はマスク着用でお願いします。)
対象者	学生（高校生除く）・社会人　※全3回受講できる方
定　員	5名程度（応募多数の場合抽選）
受講料	無料　※テキスト(指定書籍)代実費がかかります　1,650円（税込）

※テキスト(指定書籍)を事前に準備していただきます。
※テキスト(指定書籍)については受講決定案内時にお知らせいたします。

申込方法

右の申込みQRコードよりお申込みください。
URL：https://forms.gle/ktgEFwQUJPx9HD3o9
ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

申込締切 10月10日（月）

お問合せ先　宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館２階）TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail　mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講　座　名	教育機関・地域と連携した防災教育（第 12 回ストリートウオッチング）	
実施日時等	事前授業：令和 4 年 11 月 16 日（水） 地域調査：令和 4 年 12 月 6 日（火）、8 日（木） 8 時 00 分～13 時 00 分	全　3　回
会　　場	事前授業：西池小学校　　地域調査：中央西自治区内	
講　　師	宮崎公立大学　教授　辻　利則（現　学長）	
共　催　者	西池小学校、中央西まちづくり推進委員会	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	200 名	
対　　象	西池小学校関係者	
受講者数	小学校参加者：　160 名（小学生＋教員） 地域の参加者：　30 名　　学生：　20 名	

【講座の内容】

本活動は、将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みを、高齢者、障がい者など含めて実践活動を行い、地域の役割、自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して若い世代の地域参加を促すことを目的としている。

活動は、事前授業において、地震や津波、洪水など災害時に必要な心構え、特に普段から考えておくべきことについて学び、その後、実際に地域を調査する。

地域調査は、危険箇所や災害時に重要となる避難場所などを知るために、地域住民の方と一緒に歩き、過去の災害など様々な話を聞く。本学の学生は地域の方と一緒に同行し、サポート役として参加する。

本年度はコロナ対策として 5 クラスを 3 クラスと 2 クラスに分けて実施した。開発した Web アプリを使用し、タブレットを使って調査箇所を入力してもらった。

【講座風景写真】

【講師コメント】

本年度もコロナ禍の中での開催となった。昨年度まで事前授業はリモートで実施していたが、本年度は学生に各クラスで防災に関する説明を行う対面授業とした。

調査においては、地域の方と小学生、そして学生の 10 人程度でグループを作り、小学生は小学校の iPad を使って、危険箇所など調査データを入力（研究室で開発した Web アプリ）してもらった。また、子供たちの見守りカード KOTON を出発地の総合文化公園と到着地の西池小学校に設置し、保護者への伝達試験も実施した。

事前授業、そして地域調査と天候も良く、本年度も計画通りに実施することができた。本年度で 12 回となるストリートウオッチングに、ご協力頂いている中央西まちづくり推進委員会の皆さんに深く感謝します。なお、本活動は、次年度も引き続き、実施したいと考えている。

講　座　名	「子どもの貧困」を考える	
実施日時等	令和 4 年 12 月 3 日(土)　14 時 00 分～17 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　交流センター　多目的ホール	
講　　師	栗原　和樹（一橋大学大学院生）・梶原　豪人（東京都立大学大学院生） 講座企画・司会：宮崎公立大学　准教授　寺町　晋哉	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト 2 名	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募 集 定 員	50 名	
対　　象	高校生以上	
受 講 者 数	20 名	

【講座の内容】
「子どもの貧困」について、教育社会学の視点から研究している講師 2 名を招き、講座を行った。梶原豪人氏は「子どもの貧困と学校生活：地方自治体による子どもの貧困実態調査の結果から」、栗原和樹氏は「教師は貧困をどのように捉えているのか」というテーマで話題提供を行って頂いた。
　各テーマにつき 50 分の話題提供の後、フロアからの質問・意見に講師 2 名が応答する意見交換を 1 時間ほど行った。

【講座風景写真】

【講師コメント】
少人数だったが、参加者は非常に意欲的だった。テーマの内容からか、大学生だけでなく学校教員や保健所職員の方も参加者されており、多様な立場から「子どもの貧困」について理解を深めることができた。意見交換時には非常に鋭い質問が数多く寄せられ、講座全体は非常に充実していた。今後も研究領域の知見を市民の方々へ還元できるように、様々な企画に取り組んでいきたい。

自主講座フライヤー

宮崎公立大学自主講座

「子どもの貧困」を考える

「子どもの貧困」という言葉を耳にしたことがある方は多いのではないでしょうか。
では、「子どもの貧困」とはどのような状態を指すのでしょうか？「貧困」状態であることは学校生活にどのような影響を与えるのでしょうか？学校や先生は「子どもの貧困」に対してどのようにアプローチすればよいのでしょうか？
本講座では、「子どもの貧困」について、教育社会学の視点から研究しているお二人を講師に招き、話題提供して頂きます。

日時：2022年12月3日(土)

場所：宮崎公立大学　地域交流センター　多目的ホール

対象：高校生以上

定員：50名程度（受講料：無料）

※ご来場の際はマスク着用でお願いします。

【プログラム】

14:00～14:10
開会のあいさつ・講師紹介

14:10～15:00
「子どもの貧困と学校生活：地方自治体による子どもの貧困実態調査の結果から」
講師：梶原豪人（東京都立大学大学院）

15:10～16:00
「教師は貧困をどのように捉えているのか」
講師：栗原和樹（一橋大学大学院）

16:10～17:00
意見交換
司会：寺町晋哉（宮崎公立大学准教授）

申込方法（申込締切 11月23日（水））

右の申込みQRコードよりお申込みください。URL：https://forms.gle/5tIRVeDNyS5Fc6Xp8

※託児希望の方は、お子様のお名前・ご年齢のご入力をお願いします。

ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

※問合せ先　宮崎公立大学 地域研究センター（淺蓑会館２階）　TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）

講　座　名	ストレスと上手に付き合う心理学～困難を乗り越えるために～	
実施日時等	令和５年２月 21 日（火）　18 時 30 分～20 時 30 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　交流センター　多目的ホール	
講　　師	宮崎公立大学　教授　川瀬　隆千	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト３名	
受　講　料	無料	
配付資料等	講座テキスト	
募集定員	70 名程度	
対　　象	一般市民・高校生以上	
受講者数	15 名	

【講座の内容】

「第１部　ストレスとは何か」において、セリエのストレス学説、ホームズとレイの精神医学的ストレス理論、ラザルスの心理学的ストレス理論について説明した。

「第２部　ストレスと上手に付き合う」では、ストレスプロセスとコーピング、ストレスプロセスを媒介するソーシャルサポートや楽観的説明スタイルについて説明し、ストレスと上手に付き合う方法を考えた。また、ストレス関連成長とそのプロセスについても触れ、ストレスのポジティブな面についても説明した。

理論的な話が中心だが、ストレスの少ない県は？　サルも温泉でストレス解消？　笑顔がストレスを解消する？などの話も取り入れて構成した。

【講座風景写真】

【講師コメント】

講座の感想として、「ストレスと上手に付き合う方法を楽観的・悲観的から知ることができて良かった」「自己分析を書き出すのは私もするので良い方法だと思います」「車の中や歩きながら独り言を言っているのですが、書くことと同義になっているのだと気づきました」など、具体的な感想が寄せられ、参加者が自分のこととして聞いてくれたことがわかった。

高校生が数多く参加してくれ、「心理学についても興味がわきました」「私は将来公認心理士になりたいと考えています。また機会があればよろしくお願いします」などの感想も寄せられた。高校向けの講座も実施しようと思う。

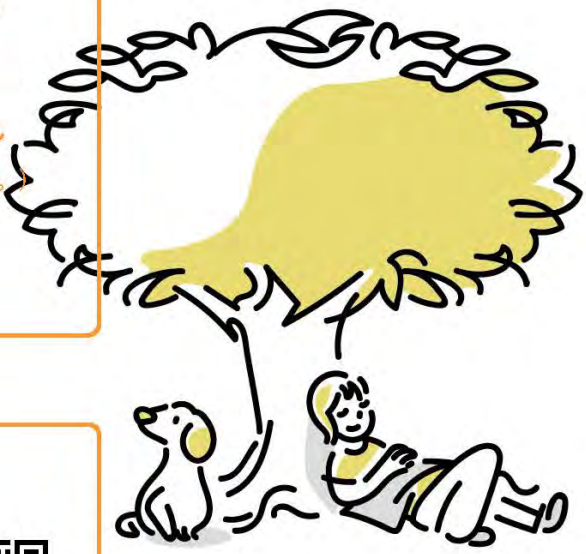
自主講座フライヤー

宮崎公立大学自主講座

ストレスと上手に付き合う心理学
困難を乗り越えるために

「ストレス」とは何でしょうか。よく使う言葉ですが、実はよくわかりません。私達の身の回りのストレスについて、心理学の観点から解説し、ストレスへの対処、さまざまな困難を乗り越える方法を考えます

講　師	川瀬　隆千（宮崎公立大学　教授）
日　時	2月21日(火) 18:30～20:30
会　場	宮崎公立大学 交流センター　多目的ホール （ご来場の際はマスク着用でお願いします。）
対象者	一般市民・高校生
定　員	70名程度（応募多数の場合抽選）
受講料	無料



申込方法

申込QRコードよりお申込みください。

URL：https://forms.gle/Kka7ap89NUkxDKbq7

（ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。）

申込締切　2月12日（日）

申込QRコード

ご注意

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオンライン(Zoom)実施または中止となる可能性があります。

オンライン(Zoom)実施または中止となる場合は、事前に宮崎公立大学地域研究センターより連絡いたします。

お問合せ先　宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館２階）　TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail　mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講　座　名	宮崎と文学―遠藤周作「無鹿」を読む―	
実施日時等	令和５年３月５日（日）10 時 00 分～12 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　交流センター　多目的ホール	
講　　師	宮崎公立大学　准教授　楠田　剛士	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	レジメ１部	
募集定員	20 名	
対　　象	一般市民	
受講者数	11 名	

【講座の内容】

宮崎を舞台にした小説である遠藤周作「無鹿」を取り上げ、その見どころを解説する講座を行った。

まず「無鹿」のあらすじと、作者遠藤の略歴を紹介した。そのなかで「無鹿」の初出と初刊に本文異同があること、代表作である「海と毒薬」「沈黙」「深い河」と同じように「無鹿」も現地取材に基づく創作であること、「無鹿」と同時期に書かれた「王の挽歌」でも大友宗麟が取り上げられているが、最近の研究や発見された未発表原稿などから、より以前から無鹿という場所に遠藤が関心を示していたことなどを説明した。

次に小説の舞台となった宮崎市の料理店「杉の子」について、実際の写真を使いながら説明した。遠藤を案内した店主の回想やエッセイなどから、遠藤が食した料理が今でも食べられることを話した。また、延岡市の「無鹿」についても、実際の写真や動画を用いながら、小説の表現との対応関係を示した。遠藤が見たものと変わらない風景を今でも見ることができること、遠藤が来県し小説を書いたことで無鹿は大友宗麟・西郷隆盛・遠藤周作が結びつく新しい風景が生まれたことなどを話した。

【講座風景写真】

【講師コメント】

画像や動画を多く用いたり、小説本文を音読したり、小休憩をはさんだりと、2 時間のなかでの進め方を工夫した。昨年度と異なり、対面で行うことでその場で参加者の感想や意見を聞きやすかった。今後も工夫した講座を行いたい。

自主講座フライヤー

2022 年度 宮崎公立大学自主講座

宮崎と文学

― 遠藤周作「無鹿」を読む ―

『無鹿』遠藤周作著 文春文庫

宮崎県を舞台にした小説「無鹿」と、その作者・遠藤周作について解説します。

講　　師：楠田 剛士（宮崎公立大学准教授、日本近現代文学）

日　　時： 2023 年 3 月5日（日） 10 時～12 時 （9 時半開場）

会　　場： 宮崎公立大学 交流センター・多目的ホール

会場入場時の検温及び講座受講時のマスク着用等のコロナウイルス感染症拡大防止対策にご協力ください.

対象・定員： 一般市民・20 名 （受講無料）

申込方法： 右記の QR コードを読み取り
必要事項をご入力してください。

申込期限： 2023年2月24日（金）

無料託児について

交流センター内に無料託児所（小学生以下）を準備します。
託児希望の方は、QR コードより必要事項をご入力ください。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオンライン(Zoom)実施となる可能性があります。
その場合は事前に宮崎公立大学地域研究センターよりご連絡いたします。
※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、
これらの目的以外に使用することはありません。

問合せ先　宮崎公立大学 地域研究センター 電話：0985-20-4772（土・日、祝を除く 9:00～17:00）
メールアドレス：mmurrc@miyazaki-mu. ac.jp

講　座　名	地域伝承と地域創生　―地域伝説を手掛かりに―	
実施日時等	令和 5 年 3 月 18 日（土）13 時 30 分～15 時 30 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　交流センター　多目的ホール	
講　　師	宮崎公立大学　教授　永松　敦、宮崎大学　講師　鈴木　良幸、 画家　水元　博子、下北方東自治会　会長　野中　高志、 池内宮崎城クラブ　会長　椎　康一	
共　催　者	民俗学研究室　地域のお宝発掘・発展・発信事業（大宮地域自治区）	
後　　援	大宮地域まちづくり推進委員会学校支援部会・宮崎市大宮地域事務所	
その他スタッフ	大宮中学校美術部・大宮小学校関係者・池内小学校関係者	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	70 名	
対　　象	一般市民	
受講者数	47 名	

【講座の内容】
大宮地区に伝わる伝承下北方町の景清伝説・池内町の宮崎城にまつわる歴史物語を、紙芝居を通して、次世代に伝承する試みを実践するもの。今回は上記 2 種の紙芝居に、大宮中学校美術部が制作した「神武様ものがたり」を公開した。
後半は、地域住民 2 名（野中氏・椎氏）と宮崎大学地域資源創成学研究科講師の鈴木氏、画家の水元氏を交えて、地域伝承を次世代にどのように伝えることが望ましいかについて討論を行った。
会場は大宮地域事務所の関係者をはじめ、地域住民、まちづくりに取り組む方々で賑わった。会場からも意見が多く出され、活発な質疑応答が行われた。

【講座風景写真】

【講師コメント】
今回はじめて、自主講座において、地域の小中学生を集め、紙芝居の発表を行ったところ、保護者、関係者など多くの人々の関心を集めることができた。2 種類の紙芝居は画家に制作を依頼したものだが、今回、大宮中学校美術部から生徒自身の手で制作したいという申し出があり、新たに「神武様ものがたり」を加えることができた。シンポジウムでは、地域伝説を次世代に伝えるために、紙芝居の制作・発表という手法が極めて有効ではないか、ということが議論された。ところが、神話に関しては、皇国史観に立っているのではないか、という批判も学校関係者の間では一部には見受けられることから、この点はあくまでも地域伝承に基づいた事実に留めるということを共通認識として有することが重要だと提言した。非常に内容の濃いシンポジウムとなった。

自主講座フライヤー

2022年度　宮崎公立大学自主講座

地域伝承と地域創生
―地域伝説を手掛かりに―

2023年3月18日（土）
13時30分～15時30分
会場　宮崎公立大学交流センター

1、紙芝居公演

大宮中学校　「神武様ものがたり」
大宮小学校　「景清ものがたり」
池内小学校　「宮崎城主　上井覚兼と南蛮犬」

2、シンポジウム
地域伝承と地域創生

パネリスト
野中　高志　宮崎市下北方東自治会　会長
椎　　康一　池内宮崎城クラブ会長
鈴木　良幸　宮崎大学大学院地域資源創成学研究科　講師
水元　博子　画家

司会
永松　敦（本学教授）

参加申込　080-6406-5493
kojiki1300miyazaki@yahoo.co.jp

主催　宮崎公立大学
共催　民俗学研究室・地域のお宝発掘・発展・発信事業
（大宮地域自治区）
協力・大宮地域まちづくり推進委員会　学校支援部会
宮崎市大宮地域事務所

令和４(2022)年度　語学講座

※各講座ともWEB会議システムZoomを利用

No.	講　座　名	講　　師	講　　座　　内　　容	日　　程
1	英語中級	宮崎公立大学 准教授 Scott Bingham	前後期各10回　全20回開講。 英語の基礎、簡単な会話ができる人を対象に受講者を募集。 募集定員40名。 その時々の話題を講師が提供し、受講生は、その話題についてグループに分かれて英語でディスカッションします。	令和４年 ５月10日～ 12月20日 （8･9月除く） 毎週火曜日 18時00分～ 19時30分
2	中国語初級	宮崎公立大学 日中文化交流促進部(学内課外活動団体)の学生	前後期各10回　全20回開講。 中国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集。 募集定員20名。 留学経験のある学生や中国からの留学生、中国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話ができるまで段階的に学びます。	令和４年 ５月12日～ 12月15日 （8･9月除く） 毎週木曜日 18時00分～ 19時30分
3	韓国語初級	宮崎公立大学 韓国文化研究部(学内課外活動団体)の学生	前後期各10回　全20回開講。 韓国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集。 募集定員20名。 韓国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話ができるまで段階的に学びます。	令和４年 ５月 9日～ 12月12日 （8･9月除く） 毎週月曜日 18時00分～ 19時30分

講　座　名	**語学講座　英語中級**	
実施期間等	令和4年5月10日～12月20日（8・9月を除く） ＊ 毎週火曜日　18時00分～19時30分	全　20　回
会　　場	宮崎公立大学よりWEB会議システムZoomを利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　准教授　Scott Bingham	
受　講　料	無料	
募集定員	40名 （高校生以上、英語の基礎、簡単な会話ができる人を対象に受講者を募集）	
受講者数	23名　＊応募者全員受講 受講者延べ数：233名	

【講座の内容】

その時々の話題を講師が提供し、受講生がグループに分かれてその話題について英語でディスカッションを行った。

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

- 以前より講座について知っていましたが、遠方である為、参加できませんでした。オンライン講座に気づき、今回初めて受講しました。大変素晴らしく、楽しい講座でした。
- ディスカッションの題材が賛否両論を上手く巻き起こすような選定で良かった。
- コロナが明けたらでいいので、対面だともっと楽しいかなと思います。

講　座　名	**語学講座　中国語初級**	
実施期間等	令和４年５月 12 日～12 月 15 日（8・9 月を除く） ＊ 毎週木曜日　18 時 00 分 ～ 19 時 30 分	全　20　回
会　　場	宮崎公立大学より WEB 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学 日中文化交流促進部　（学内課外活動団体）	
受　講　料	無料	
募集定員	20 名 （高校生以上、中国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集）	
受講者数	14 名　＊応募者全員受講 受講者延べ数：123 名	

【講座の内容】

留学経験のある学生や中国からの留学生、中国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話が理解できるまでを学んだ。

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

- 講師の学生の方々は、自分のような初心者に対して、非常に分かりやすく丁寧に教えていただき大変感謝しています。今回の講座をきっかけに中国語の勉強に励みたいと思います。それにしても中国語は発音、四声が難しい。
- 発音を丁寧に教えてくださり凄く良い勉強になりました。

講　座　名	**語学講座　韓国語初級**	
実施期間等	令和4年5月9日～12月12日（8・9月を除く） ＊ 毎週月曜日　18時00分～19時30分	全　20　回
会　　場	宮崎公立大学よりWEB会議システムZoomを利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　韓国文化研究部　（学内課外活動団体）	
受　講　料	無料	
募集定員	10名 （高校生以上、韓国語で簡単な読み書きができる方を対象に受講者を募集）	
受講者数	8名　＊応募者全員受講 受講者延べ数：70名	

【講座の内容】

韓国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話が理解できるまでを学んだ。

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

- 韓国が本当に好きで、ある程度自分で韓国語や文化について勉強していたのですが、今回の講座を受けて、知らなかったことをたくさん知ることができて、とても良い時間となりました。
- とても分かりやすい講座で参加して本当に良かったと思います。

語学講座フライヤー

宮崎公立大学語学講座

自宅で受講

▼

WEB会議システム
Zoomを利用します。

▼ 通信機器の準備が必要です。

本講座を受講するには、インターネットに接続されたパソコン、タブレットまたはスマートフォンのいずれかを各自ご準備いただく必要があります。また、タブレットまたはスマートフォンをご利用の場合は、Wi-Fi接続をお勧めいたします。

講座受講料は無料
ですが、講座を視聴するための通信料（インターネット料金）は、受講生の負担となります。

zoom

Zoomは無料で利用できます。インストールの方法等はZoomのウェブサイトをご確認ください。
（有料版の購入は必要ありません）

ご注意

Zoomの利用方法等について、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。

講座・講師名	講座内容及び募集対象	曜日	講座日程
韓国語初級 韓国文化研究部 （本学学生）	韓国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。（初心者に限る） ※　一般市民(高校生以上)　定員10名	月曜日	5月9日～12月12日 18時00分～19時30分 全20回（8月・9月除く）
英語中級 スコット　ビンガム （准教授）	講師から出された課題を英語で話し合います。（基本的な英会話や読み方のできる方） ※　一般市民（高校生以上）　定員40名	火曜日	5月10日～12月6日 18時00分～19時30分 全20回（8月・9月除く）
中国語初級 日中文化交流促進部 （本学学生）	中国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。（初心者に限る） ※　一般市民(高校生以上)　定員20名	木曜日	5月12日～12月15日 18時00分～19時30分 全20回（8月・9月除く）

受講のお申込について

お申込みはEメールにて受付いたします。必要事項を本文に入力して申込受付期間中に送信してください。

メールアドレス
mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp
『@miyazaki-mu.ac.jp』の受信設定をお願いします。

必要事項
表題に「語学講座希望」と記載
本文に①希望講座名、②氏名、③学校・所属先など、④連絡のつく電話番号
ご提供いただいた個人情報は本講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

申込受付期間
令和４年４月１日(金)～４月24日(日)　＊受講者の決定はメールにて5月2日頃にお知らせします。

本学ホームページ　公式YouTube　公式Twitter

お問合せ先　[illegible] TEL [illegible]

講　座　名	リカレント教育プログラム「ホテル接客英語講座」	
実施期間等	令和４年９月 28 日～12 月７日 ＊ 毎週水曜日　13 時 30 分～15 時 00 分	全 10 回 ＋ 修了認定試験
会　　場	宮崎公立大学　凌雲会館　共同研究室	
講　　師	宮崎公立大学グローバル人材養成プログラム講師（英語） 李　世恩	
受　講　料	30,000 円（教材費等含む）	
対　　象	主に宮崎市内のホテル勤務者等	
募集定員	10 名	
受講者数	７名	

【講座の目的】

広く地域に開かれた大学として、地域における課題の解決や人材の育成に寄与するため、多様な学習ニーズに対応した多様な形態の学生（受講生）の受入を行い、生涯にわたる学び直しの場として、学習の機会を積極的に提供するため、本講座を開講する。

【受講生からのコメント】

・コロナ禍で外国人旅行客がゼロになり、英語を話す機会がありませんでした。最近は客足も戻り、英語は使わないと忘れてしまうなあと思っていた所での講座でとても助かりました。ただ教科書の例文を読むのではなく、使う英語を自分たちで考え、先生にアドバイスを頂けた事で生きた英語を学ぶ事が出来ました。みんなで発表し合う事でいろんな表現を知る事ができ、大変有意義な時間となりました。

・この講座のお陰でインバウンドのお客様とも少しは自信を持って接客することができました。

【講座風景写真】

講座スケジュール

回	日　　時	内　　容
1	9 月 28 日（水） 13:30～15:00	**オリエンテーション** **来客応対の基本**
2	10 月 5 日（水） 13:30～15:00	**異文化理解と基本的な英語表現**
3	10 月 12 日（水） 13:30～15:00	**ホテル接客英会話** ※エントランス・ロビー
4	10 月 19 日（水） 13:30～15:00	**ホテル接客英会話** ※フロント（チェックイン・チェックアウト）
5	10 月 26 日（水） 13:30～15:00	**ホテル接客英会話** ※ルームサービス・ハウスキーピング
6	11 月 2 日（水） 13:30～15:00	**ホテル接客英会話** ※コンシェルジュ①
7	11 月 9 日（水） 13:30～15:00	**ホテル接客英会話** ※コンシェルジュ②
8	11 月 16 日（水） 13:30～15:00	**ホテル接客英会話** ※レストラン・バー
9	11 月 23 日（水） 13:30～15:00	**ホテル接客英会話** ※電話応対
10	11 月 30 日（水） 13:30～15:00	**ホテル接客英会話** ※トラブル、クレーム対応
—	12 月 7 日（水） 13:30～15:00	**修了認定試験** ※合格者に修了認定証を発行

令和４(2022)年度　開放授業

名　　称	担　当　講　師	概　　要	期　　間
前　　期 開放授業		新型コロナウイルス感染 拡大防止のため、中止	
後　　期 開放授業		新型コロナウイルス感染 拡大防止のため、中止	

令和４(2022)年度　　公民館講座

NO.	講　座　名	担当講師	日程・講座会場
1	よみがえる江戸時代の宮崎	教授 大賀　郁夫	中央公民館 令和４年５月 31 日（火）
2	現代の文学作品を読む	准教授 楠田　剛士	久峰中校区活動センター 令和４年８月 20 日（土）
3	現代の文学作品を読む	准教授 楠田　剛士	久峰中校区活動センター 令和４年 10 月 15 日（土）
4	現代の文学作品を読む	准教授 楠田　剛士	高岡地区農村環境改善センター 令和４年 10 月 21 日（金）
5	よみがえる江戸時代の宮崎	教授 大賀　郁夫	那珂地区公民館 令和４年 11 月 11 日（金）

令和4(2022)年度　その他講座・講演・講義

講　演　名	担当講師	開　催　趣　旨	日　　程
宮崎公立大学 教育フォーラム 2022 教室の学びを外の世界とつなげる ～authentic な学びを目指して～	宮崎公立大学 教授 野﨑　秀正	新学習指導要領が今年度高等学校へ導入されたことに伴い、小中高等学校が連携しながら英語教育をさらに充実・発展させることが課題となっています。学校現場では、従来のように「知識」を学ぶだけでなく、それを用いて「何ができるのか」という実践面と、更にそれを社会貢献につなげる意識の涵養が求められます。また、地域社会においては、国際化が進む中、様々なバックグラウンドを持つ人たちと英語を介して協働していく必要性が生じています。　このような社会情勢とそれに伴う国の教育政策の動向を受け、今回で5回目の開催となる宮崎公立大学教育フォーラムでは、「教室の学びを外の世界とつなげる　～authentic な学びを目指して～」をテーマに、県内外で活躍している本学卒業生を含む英語教育の実践者や研究者をお招きし、授業実践報告や基調講演を通して、これからの英語教育のあり方を考えていきたいと思います。本年度は新型コロナウィルス感染拡大防止に努めながら、対面での開催とさせていただきます。日頃から学校現場で英語教育を実践されている方々、教育行政に携わる方々英語教育に関わる研究を進めておられる皆様方と一緒にauthentic learning（より実践的な本物の学び）について一緒に考える機会になれば幸いです。皆様方のご参加を心よりお待ちしています。	令和4年 8月4日（木） 12:30～16:30

講　義　名	担当講師	概　　要	日　　程
最終講義 中津燎子著「何で英語やるの？」の答えを探し続けて ―外国語の出会い、音との出会い―	宮崎公立大学 教授 竹野　茂	講演者（竹野）の過去を振り返り、個人的な言語体験からこれまでの英語教育（学習）、これからの英語教育（学習）についてお話ししたいと思います。その話の中から、母語以外の言語を習得しようとする人たちが何らかのヒントを見出してほしいと期待しています。外国語との出会いはやはり母語とは異なる音との出会いです。音と戯れ、親しむことが外国語の第一歩になると考えます。その音との接し方に触れ、その面白さをお伝えしたいと考えています。 また、本来言語習得は集団（コミュニティー）の中で培われるものであるのに、それが外国語学習になるとある面「個」的な営みを強いられることもあります。孤独との戦いを強いられるということです。 時間が許せば、それらの困難をどのように解決するかも考えたいと思います。	令和５年 ３月９日（木） 18:30～20:00
最終講義 我が研究人生とは？ －「地域から」をモットーに－	宮崎公立大学 学長 有馬　晋作	実務家出身の研究者としてマイペースの自分の研究人生を振り返りながら、これまでの「劇場型首長研究」と、今後のテーマの「現代地方自治の歴史」など、地方自治について幅広く論じてみたいと思います。	令和５年 ３月 17 日（金） 18:30～20:00

宮崎公立大学教育フォーラム 2022			
講　演　名		教室の学びを外の世界とつなげる ～authentic な学びを目指して～	
実施日時等		令和 4 年 8 月 4 日（木）12 時 30 分～16 時 30 分	全　1　回
会　　場		宮崎市教育情報研修センター	
	時　間	内　　容	
1	12 時 30 分 ～12 時 45 分	開会行事	
2	12 時 45 分 ～14 時 00 分	基調講演 質疑応答	テーマ：「授業を実際のコミュニケーションの場に！」 講　師：富髙 雅代 （文部科学省初等中等教育局教科調査官）
3	14 時 10 分 ～15 時 30 分	授業実践報告	プレゼンター：内田　笑里 （唐津市立西唐津小学校 教諭） プレゼンター：森 崎　　啓 （大分市立鶴崎中学校 教諭） プレゼンター：立山　嵯斗志 （宮崎県立日向工業高等学校 教諭） コメンテーター：富髙　雅代 （文部科学省初等中等教育局教科調査官） 司　　会：松本　祐子 （宮崎公立大学 教授）
4	15 時 40 分 ～16 時 20 分	情報交換・ グループ討議	グループに分かれ参加者による自由な意見・情報交換を行った。
5	16 時 20 分 ～16 時 30 分	閉会行事	
受　講　料		無料	
対　　象		宮崎県内外の教育関係者	
受 講 者 数		60 名	

教育フォーラム 2022 フライヤー

宮崎公立大学　教育フォーラム　2022

教室の学びを外の世界とつなげる

～authenticな学びを目指して～

開催趣旨：新学習指導要領が今年度高等学校へ導入されたことに伴い、小中高等学校が連携しながら英語教育をさらに充実・発展させることが課題となっています。学校現場では、従来のように「知識」を学ぶだけでなく、それを用いて「何ができるのか」という実践面と、更にそれを社会貢献につなげる意識の涵養が求められます。また、地域社会においては、国際化が進む中、様々なバックグラウンドを持つ人たちと英語を介して協働していく必要性が生じています。

このような社会情勢とそれに伴う国の教育政策の動向を受け、今回で5回目の開催となる宮崎公立大学教育フォーラムでは、「教室の学びを外の世界とつなげる ～authenticな学びを目指して～」をテーマに、県内外で活躍している本学卒業生を含む英語教育の実践者や研究者をお招きし、授業実践報告や基調講演を通して、これからの英語教育のあり方を考えていきたいと思います。本年度は新型コロナウィルス感染拡大防止に努めながら、対面での開催とさせていただきます。日頃から学校現場で英語教育を実践されている方々、教育行政に携わる方々英語教育に関わる研究を進めておられる皆様方と一緒にauthentic learning（より実践的な本物の学び）について一緒に考える機会になれば幸いです。皆様方のご参加を心よりお待ちしています。

日時　2022年8月4日(木)12:30～16:30

場所　宮崎市教育情報研修センター　**参加費**　無料（定員100名）

基調講演
テーマ：「授業を実際のコミュニケーションの場に！」
講　師　：富髙　雅代（文部科学省初等中等教育局教科調査官）

授業実践報告：「教室の学びを外の世界とつなげる実践」

プレゼンター	内田　笑里	（唐津市立西唐津小学校　教諭）
プレゼンター	森崎　啓	（大分市立鶴崎中学校　教諭）
プレゼンター	立山　嵯斗志	（宮崎県立日向工業高等学校　教諭）
コメンテーター	富髙　雅代	（文部科学省初等中等教育局教科調査官）
司会	松本　祐子	（宮崎公立大学　教授）

※ 当日のプログラム、参加申込の方法につきましては裏面をご覧ください。

後援：宮崎県教育委員会・宮崎市教育委員会

教育フォーラム 2022 フライヤー

プログラム

1	開会行事	12:30~12:45
2	基調講演	12:45~13:45
3	質疑応答	13:45~14:00
休憩		14:00~14:10
4	授業実践報告	14:10~15:30
休憩・会場設営		15:30~15:40
5	情報交換・グループ討議	15:40~16:20
6	閉会行事	16:20~16:30

※ フォーラム終了後、本フォーラムの内容に関する簡単なアンケートにご協力下さい。

参加申込方法

右のQRコードから参加予約フォームにアクセスし、氏名・所属・連絡先(メールアドレス)等必要事項を入力の上、7月28日(木)までに送信してください。後日、受付確認メールを送信していただいたメールアドレス宛にお送りします。

お問い合わせ

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目1-2 宮崎公立大学「教育フォーラム開催事務局」
<代表> 宮崎公立大学 教授 野﨑秀正
TEL: 0985-20-2000 FAX: 0985-20-4820 E-mail: nosaki@miyazaki-mu.ac.jp

アクセス

〒880-0803 宮崎県宮崎市旭1丁目4−1
宮崎市教育情報研究センター

橋通方面から県庁楠並み木通を東に直進し、八幡通へ右折後すぐに、青い看板を目印に右に入ってください。（一方通行ですのでご注意下さい。宮崎小学校の入口と間違えないようにしてください）

最終講義	中津燎子著「何で英語やるの？」の答えを探し続けて ―外国語の出会い、音との出会い―	
実施日時等	令和５年３月９日（木）　18 時 30 分～20 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　103 大講義室 宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　教授　竹野　茂	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	なし	
対　　象	一般市民・本学卒業生・本学在校生・本学関係者	
受講者数	対面参加者：　17 名 オンライン参加者：　３名	

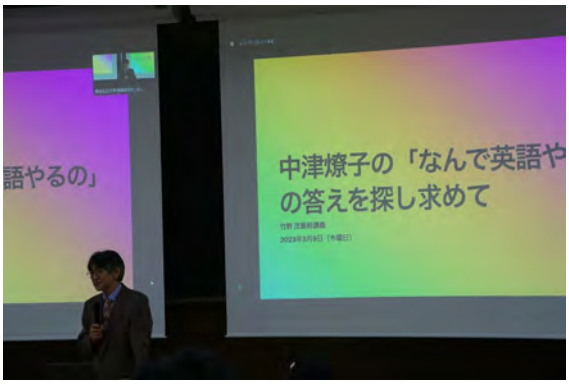
【講師による講義内容の紹介】

講演者（竹野）の過去を振り返り、個人的な言語体験からこれまでの英語教育（学習）、これからの英語教育（学習）についてお話ししたいと思います。その話の中から、母語以外の言語を習得しようとする人たちが何らかのヒントを見出してほしいと期待しています。外国語との出会いはやはり母語とは異なる音との出会いです。音と戯れ、親しむことが外国語の第一歩になると考えます。その音との接し方に触れ、その面白さをお伝えしたいと考えています。

また、本来言語習得は集団（コミュニティー）の中で培われるものであるのに、それが外国語学習になるとある面「個」的な営みを強いられることもあります。孤独との戦いを強いられるということです。

時間が許せば、それらの困難をどのように解決するかも考えたいと思います。

【講義風景写真】



最終講義フライヤー

宮崎公立大学　**竹野　茂**　教授

最終講義

中津燎子著「何で英語やるの？」の答えを探し続けて
―外国語の出会い、音との出会い―

概要

講演者（竹野）の過去を振り返り、個人的な言語体験からこれまでの英語教育（学習）、これからの英語教育（学習）についてお話ししたいと思います。その話の中から、母語以外の言語を習得しようとする人たちが何らかのヒントを見出してほしいと期待しています。外国語との出会いはやはり母語とは異なる音との出会いです。音と戯れ、親しむことが外国語の第一歩になると考えます。その音との接し方に触れ、その面白さをお伝えしたいと考えています。
また、本来言語習得は集団（コミュニティー）の中で培われるものであるのに、それが外国語学習になるとある面「個」的な営みを強いられることもあります。孤独との戦いを強いられるということです。
時間が許せば、それらの困難をどのように解決するかも考えたいと思います。

3月9日（木）　18：30～20：00（18：00～受付）

会場：宮崎公立大学　103大講義室（研究講義棟1階）

対象：一般

3月7日(火)
までにお申込み
ください。

【申込方法】

右の申込QRコードもしくは下のURLからお申込みください。
URL：https://forms.gle/N1DnECCYUtxgc9ww6

ご提供いただいた個人情報は本学が実施している
各種講座の運営および統計分析に使用し、
これらの目的以外に使用することはありません。

注意事項
※ お申込み完了後緊急の場合を除いてのご連絡は致しません。
※ 会場へご入場の際はマスク着用や手指消毒等、新型コロナウイルス感染拡大防止対策へのご協力をお願いいたします。

お問合わせ先
宮崎公立大学　地域研究センター
〒880-8520　宮崎市船塚1丁目58　凌雲会館2階　（受付時間：土日祝を除く9:00～17:00）
TEL：0985-20-4772　FAX：0985-20-4773　メール：mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp

最終講義	我が研究人生とは？ －「地域から」をモットーに－	
実施日時等	令和５年３月 17 日（金）　18 時 30 分～20 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　103 大講義室 宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　学長　有馬　晋作	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募 集 定 員	なし	
対　　象	一般市民・本学卒業生・本学在校生・本学関係者	
受　講　者	対 面 参 加 者：　29 名 オンライン参加者：　26 名	

【講師による講義内容の紹介】

実務家出身の研究者としてマイペースの自分の研究人生を振り返りながら、これまでの「劇場型首長研究」と、今後のテーマの「現代地方自治の歴史」など、地方自治について幅広く論じてみたいと思います。

【講義風景写真】

最終講義フライヤー

宮崎公立大学　学長　有馬　晋作

最終講義

我が研究人生とは？
―「地域から」をモットーに ―

概要

実務家出身の研究者としてマイペースの自分の研究人生を振り返りながら、これまでの「劇場型首長研究」と、今後のテーマの「現代地方自治の歴史」など、地方自治について幅広く論じてみたいと思います。

3月17日（金）18：30～20：00（18：00～受付）

会場：宮崎公立大学　103大講義室（研究講義棟1階）

対象：一般

3月15日(水)
までにお申込み
ください。

【申込方法】

右の申込QRコードもしくは下のURLからお申込みください。
URL：https://forms.gle/fPaSaAbLmwThb86z7

ご提供いただいた個人情報は本学が実施している
各種講座の運営および統計分析に使用し、
これらの目的以外に使用することはありません。

注意事項

※ お申込み完了後緊急の場合を除いてのご連絡は致しません。
※ 会場へご入場の際はマスク着用や手指消毒等、新型コロナウイルス感染拡大防止対策へのご協力をお願いいたします。

お問合わせ先

宮崎公立大学　地域研究センター
〒880-8520　宮崎市船塚1丁目58　凌雲会館2階　（受付時間：土日祝を除く9:00～17:00）
TEL：0985-20-4772　FAX：0985-20-4773　メール：mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp

Ⅱ　研　究　事　業

令和 4(2022)年度 宮崎公立大学学術研究推進助成事業

令和４(2022)年度　宮崎公立大学学術研究推進助成事業

No.	職　氏　名	研　　究　　課　　題
1	教授 野﨑　秀正	宮崎公立大学から発信する地域の教育力向上を目指した 「教育フォーラム」の開催
2	教授 永松　　敦	東アジア十五夜行事の研究 ―日向景清伝説を通して―
3	准教授 梅津　顕一郎	21 世紀型地域ガイドブックの構想:地域の魅力を語る新しい枠組
4	准教授 田村　恵理子	国際人道法の交戦者平等原則を再考する ―現下のウクライナ戦争を契機に―

宮崎公立大学から発信する地域の教育力向上を目指した

「教育フォーラム」の開催

［研究代表者］

野 﨑　　秀 正（宮崎公立大学　教授）

［研究分担者］

松 本　　祐 子（宮崎公立大学　教授）

寺 町　　晋 哉（宮崎公立大学　准教授）

宮内　なぎさ（宮崎公立大学　准教授）

Ⅰ　実施概要

本事業は、学習指導要領の改訂に伴い教育改革が進められている現在の学校教育において、地域の学校教育に携わる教員、本学を卒業し教育実践に携わっている教員、卒業後に教員になることを目指している本学の教職課程の学生、児童・生徒の保護者等地域の方々を対象に、効果的な教育実践について考える機会を確保し、宮崎市をはじめとする地域の学校教育の発展と本学の教職教育の教育力のさらなる向上に貢献することを目的として実施された。具体的には、①教育実践における問題点や悩みを共有し、改善や解決を図る、②授業における効果的な活動やアイディアを共有する、③情報交換を通して、教員間、卒業生と在校生、および大学と地域のネットワークを広げ、相互の親睦を図る、④本学の教職課程における教員養成の特色を地域社会に広く紹介する、の 4 つの目的の達成を目指した。フォーラムのテーマは「教室の学びを外の世界とつなげる～authentic な学びを目指して～」とし、第 1 部では文部科学省より富髙雅代教科調査官を招待し、「授業を実際のコミュニケーションの場に」と題する基調講演（第 1 部）を実施した。また、第 2 部では、本学を卒業し、現在学校現場で教師として活躍している唐津市立西唐津小学校の内田笑里教諭、大分市立鶴崎中学校の森崎啓教諭、宮崎県立日向工業高等学校の立山嵯斗志教諭の 3 名が各校種の代表として、授業の実践報告を行った。その後、発表者と参加者を交えて情報交換会（グループワーク）を行い、交流と学びを深めた。

Ⅱ　本事業実施により得た成果・効果等

今回の教育フォーラムは、宮崎県教育委員会と宮崎市教育委員会の後援を受け、令和 4 年 8 月 4 日（木）に宮崎市教育情報研修センターにおいて実施された。新型コロナウィルスの影響により 2 年続けて完全オンラインでの実施となっていたことから、3 年ぶりの対面形式での実施となった。参加者は、主に現職の学校教員である学外参加者と本学の学生であり、合計 56 名が参加した。このうち、本学から参加した学生 36 名に対し事後アンケートを実施した。次の質問項目について、5 段階評価（5：とてもそう思う、4：そう思う、3：どちらともいえない、2：そう思わない、1：全くそう思わない）により回答を求めた結果、①「最新の英語教育に対する理解を深められた」の回答については、5 に回答した者が 76.5%（26 名）、4 に回答した者が 23.5%（8 名）であった。また、②「どのような英語力・指導力が現場では求められるのかが明確になった」の回答については、5 に回答した者が 61.8%（21 名）、4 に回答した者が 38.2%（13 名）であった。さらに、③「自分自身の英語力・指導力についての課題が明確になった」の回答については、5 に回答した者が 47.1%（16 名）、4 に回答した者が 44.1%（15 名）、3 に回答した者が 8.8%（3 名）となり、いずれの回答結果からも教職課程を履修する学生の教職への意欲や知識を向上させていることが確認された。また、コロナ禍後初めての対面開催であったことから講演者や発表者に対する意見や質問、またはグループワーク内における相互の質問や意見の交換など、多くの質問や意見が飛

び交い、テーマに沿った活発な情報交換の場となっていることが確認でき、設定した4つの目的を達成することができた。

Ⅲ　問題点および今後の課題等

それまでのコロナ禍におけるオンラインでの開催は、情報交換が円滑ではなかったという反省もあったことから、令和5年度以降も対面開催を前提に、準備を行うこととした。また、今回のフォーラムは、当初は公立大学にて実施する予定であったが、フォーラム当日に公立大学を会場とする他イベントと開催日程が重なってしまったことから、急遽、宮崎市教育情報研修センターに会場を変更して実施することになった。会場予約や備品移動の問題も生じたことから、今後は学内での情報共有を密にすることで各部署との適切な調整を行う必要がある。また、学外からの参加者が想定よりも少ないという点も課題として残された。今回は、教育系の他イベントと日程が被っていた影響もあるが、この5年間、本学の特色である英語教育だけテーマを絞って実施してきたことに問題があることも考えられた。そのため、例えば生徒指導や総合的な学習の時間のような英語教育以外の教育的テーマを取り上げることで、学外からの参加をこれまで以上に増やす工夫が必要であると思われた。

東アジア十五夜行事の研究

―日向景清伝説を通して―

［研究代表者］
永松　　敦　（宮崎公立大学　教授）

［研究分担者］
大杉　　徹　（立命館大学　教授）
島村　恭則（関西学院大学　教授）

Ⅰ　実施概要

今回は、東アジアの十五夜行事を通して、国内における多文化共生の在り方を考えた。旧暦 8 月 15 日、十五夜となる 2022 年 9 月 10 日（土）に、平和台公園レストハウスにおいて、シンポジウムを実施した。日本・韓国・中国の十五夜行事の復元を行った。特に、在日コリアンの方の秋夕の供え物を実物で展示することができた。協力は、押川敬姫氏（オモニのまんま亭)。パネリストは、大形徹氏（中国哲学）・ 島村恭則氏（民俗学）と宮崎県多文化共生アドバイザーの挑洪亮氏と大隅ヘミン氏のお二人。

そのほか、韓国安東市在住の金俊漢氏（元 EBS 制作局長)・大阪の在日コリアンの李信恵氏の講演録画を公開した。聴衆は約 60 名。高齢者から幼児まで幅広い年齢層の参加が見られた。中秋の名月の光に照らされながらのシンポとなった。宮崎の在日本大韓民国民団の職員の方の参加も見られた。

今回、焦点を当てたのは十五夜行事を通して多文化共生の在り方。毎年同日、ほぼ同時刻に同じ月を祭る東アジアの共通の文化を探ることにより、相互の文化認識の在り方、共生の在り方を考えるよい機会となった。

Ⅱ　本事業実施により得た成果・効果等

月に兎がいると認識する文化がどのように生まれ、変化をしたのかが見えてくるようになった。ウサギ（免・兎）とカエル（蟾蜍）と月は、馬王堆、あるいは前漢の瓦当あたりが初出のようである。図像学的にみれば、エジプトに、その原形を求めることができそうである。これは太陽の中にいるカラスも同様である。エジプトでは月ではなく、太陽である。三日月形の舟の上にスカラベと女性がいる。中国では三日月形の舟が三日月そのものになった。しかし、この三日月の造形は、中国では普遍化されなかった。月の問題はさらに世界的に見ていく必要がある。こうした興味深い事例に対して、特徴ある現代日本の十五夜の行事としてあげられるのは、近年、小早川道子が精力的に調査している「お月見どろぼう」の事例であろう。これは、子どもたちが家々を回ってお菓子をもらい歩く行事で、さかんに行なわれているのは、愛知県の日進市、名古屋市東部、三重県四日市市だという。また、この行事は、農村部以外の新興住宅地にも伝わっており、次第に分布が拡大する傾向があるという。「お月見どろぼう」が集中的に見られるのは東海地方であるが、同時に、千葉県、岐阜県、奈良県にも少数ながら事例を見出すことができる。今後、メディアの介在などがあれば、さらに多くの地域で類似の行事が行なわれるようになるかもしれない。

中国、台湾、日本における以上のような事例からは、十五夜行事は現在でも、多様なかたちで息づいていることが理解できる。

Ⅲ　問題点および今後の課題等

日中韓の十五夜行事研究は、2020 年から毎年実施してきた。本学とは別に、日本民俗学会第 914 回談話会において、「民俗学における多文化共生 ―東アジアの十五夜行事から考える―」を開催し、中国・台湾・韓国とともに、北海道のアイヌ民族も含めて検討する機会を得ることができた。内容は『日本民俗学』第 309 号に「小特集民俗学における多文化共生一東アジアの十五夜行事から考える一」（2022 年 2 月）として掲載されている。本研究は国内外から注目されるようになり、オンラインが普及した今日においては、どこの国とも連携して実施することが可能となった。令和 5 年度は、自主講座として実施するが、その後は、申請者の定年退職により、本学での継続は難しい。今後は日本民俗学会等を通して、本研究の継続発展の可能性を追求したいと考えている。

21 世紀型地域ガイドブックの構想:地域の魅力を語る新しい枠組

［研究代表者］
梅津　顕一郎（宮崎公立大学　准教授）

［研究分担者］
倉　　真 一（宮崎公立大学　准教授）

Ⅰ　実施概要

・9 月　第 1 回勉強会(梅津・倉)
「大学的地域ガイド」シリーズにおける「地域の魅力」の語り方に関する検討および、宮崎における地域の魅力の語り方に関する検討(以下、隔月で開催)。
・11 月　第 2 回勉強会(梅津・倉)
・ 2 月　第 3 回勉強会(梅津・倉)
宮崎大学地域資源情報活用センター（宮崎伝承プラットフォーム）の鈴木良幸氏（民俗学)、渡辺一弘氏（文化人類学）との意見交換
・3 月 15 日～17 日　資料収集調査(倉)
東京、国立国会図書館、JTB 旅の図書館、東京大学図書館
宮崎の戦前・戦後期の案内書（ガイドブック）の資料収集

Ⅱ　本事業実施により得た成果・効果等

プロジェクト初年度にあたる今年度は、主に地域の語り方についての勉強会を行った。具体的には①昭和堂書店より出版されている「大学的地域ガイドシリーズ」の中で、特に特徴的なものをいくつか取り上げ、記述の対象と着眼点、視角の在り方についてディスカッションを行った。併せて②宮崎における「大学的～」を編纂するとすれば、地域文化、産業等についてどのような素材があり、どのような角度で記述することが可能かについても検討した。検討にあたって宮崎大学地域資源活用センター(宮崎伝承プラットフォーム）の鈴木良幸氏らとの意見交換の機会をもった。

宮崎の新しい魅力の語り方を考えるにあたり、同シリーズを手掛かりとした理由は以下のとおりである。
形式的には観光ガイドのスタイルをとりつつも、敢えて「大学的」「こだわりの歩き方」と銘打つことにより、アカデミックな、研究的視点が内包されていることを示している。すなわち、「観光」という実践的な活動を媒介として、学問研究が果たしうる地域貢献の可能性を示す内容となっており、この文脈に「地域文化・社会」の読み方も位置付けられている。これは、主担者梅津が行ってきた郷土かるたと地域アイデンティティ創造の研究(梅津 2020)、分担者・倉の行ってきた過去のメディアコンテンツに表現される宮崎イメージの読み取り方に関する研究棟で得られた知見を、宮崎地域文化への視角の模索を通じ、より実践的な地域貢献活動として具体化するうえで重要な手掛かりとなる。

①の作業から得た知見は、以下のとおりである。
同シリーズにおいては、編集の方針が各大学の担当者にある程度任されていることもあり、歴史、社会問題、生活文化など、主眼とするテーマ、「語り口」ともに多種多様なかたちが存在するが、共通項目として、次の点が確認できる。

a.県域を対象としたもの、および特化した対象をテーマとしたもの(富士山)などに分かれる。b.地域を客体としてとらえ、その外側にいるものとして記述する(＝外からの目線)のではなく、地域文化の当事者として自身を位置づけ記述する(＝内側からの目線)。c.同時に、中央集権的な社会経済の分業体制にとらわれない観点から他地域との連帯、開放性を視野に入れた記述となっている。d.経済合理性に主眼を置いた議論ではなく文化の自立性、連続性に主眼を置いた歴史的視点に基づいている。e.いわゆるアカデミックな視点(執筆者の学問的専門性)に基づく論考と、反対に専門性に拘らない、あるいは専門分野横断的な論考の双方が含まれること。

また②の作業から見えてきたものは以下の通りである。
従来の観光ガイド等で語られてきた「宮崎」像の多くは、近代以降に作られたイメージに依拠しており、また宮崎を客体としてとらえる「中央」の視点を想定したものであり、その意味では、中央集権型の社会・経済体制を前提としたものとみることができる。一方、宮崎地域には研究機関所属、あるいは在野の研究者たちによる数多くの地域研究(文化、歴史)が存在している。研究知見や資料のアーカイブ化も試みられており、これらの試みを地域に根差した自立的視点から結び、「地域ガイド」という実践的試みへと橋渡しすることが、目指すべき方向性となる。宮崎における戦前・戦後期の観光案内書（ガイドブック）は、中央集権型の社会・経済体制が確立していく過程を反映していると同時に、それが未確立だった時代における別様の地域の語りの可能性を示している。それゆえ20世紀型の中央集権的な社会・経済体制が揺らぐ、21世紀における新しい地域の語りを模索する本研究における、これら歴史的資料の分析の重要性があらためて明らかになった。

Ⅲ　問題点および今後の課題等

研究初年度の狙いは、あくまで宮崎地域の新しい語り方を考えるうえでの、基本的なアイデアや方向性を模索することにあり、その狙いは十分に達成できたと考える。

次年度以降の課題としては、これを「地域ガイド」編纂の具体的なプランにおこす上で、クリアすべき問題点と今後の課題について、いくつか列挙しておく。

第1に、本事業は、昭和堂から刊行されている「大学的地域ガイド」シリーズの宮崎版としての出版を将来的に想定している。昭和堂では、刊行の条件として、①大学などからの出版助成、②大学でのテキストとして、一定の冊数を継続的に採用、あるいは①②の組み合わせを提示しており、これらの条件をクリアする方策（例えば、カリキュラム上、テキスト採用の可能性がある科目）の検討が必要である。

第2に、宮崎県版の地域ガイドとしては、本学の教員だけでなく他大学（例：宮崎大学）あるいは高等教育コンソーシアム宮崎といった単位で執筆者を募る方が望ましい。そこで、県内の大学等に籍を置く教員や研究者の専門や研究テーマ、宮崎に関連する業績等をピックアップしたうえで、執筆者を依頼・決定し、章立てなど編纂を進めていく必要がある。少なくとも執筆者の候補決定、および章立ての素案の作成までは2年目までに実現したい。

第３に、１年目で検討を進めてきた、基本的なアイデアや方向性を、第１と第２の課題をクリアしつつ、他大学の教員や研究者を含めた執筆陣といかに共有していくか、という課題があるだろう。これまでに検討してきたアイデアや方向性を、より分かりやすく明示できるようにするとともに、共同での研究会やシンポジウムを通じて、潜在的な執筆者や想定される読者とコンセプトの進化と共有を図っていきたい。

国際人道法の交戦者平等原則を再考する

―現下のウクライナ戦争を契機に―

［研究代表者］
田村　恵理子　（宮崎公立大学　准教授）

Ⅰ　実施概要

本研究の目的は、違法に武力紛争を始めた国もその被害国も等しく国際人道法を遵守せねばならないという交戦者平等原則が、侵略戦争であることが明白な現下のウクライナ戦争の下でも妥当性をもつかという問いを契機に、より広く次の 2 点つまり①国際人道法上の権利は侵略国に与えるべきでないという差別適用論、②法的に対等でない反徒及び事実上軍事能力が非対称に劣る国家と戦う国家はより高い水準の国際人道法上の義務を負うべきとする差別適用論を検討することによって、交戦者平等原則の基盤を再考することであった。

①の検討では、近年刊行された Anne Quintin, The Nature of International Humanitarian Law: A Permissive or Restrictive Regime?（2020）を嚆矢に、国際人道法がすべて義務規範から成立するのか否かをめぐる新たな議論を詳細にフォローした結果、「国際人道法は基本的に義務規範の体系である」ことで一致を見ていること、例外的に禁止規範からの限定的な逸脱を許容したり一定条件下で人の抑留する権限を付与したりする規範も含むが、そのことを見越して jus in bello（国際人道法）が jus ad bellum の影響を受けないように諸国は条約作成時に配慮してきたので差別適用論は抑止されていること、さらには、国際人道法がすべて義務規範から成りそれがカヴァーしない事項は事実上の許容であって法的容認ではないとする立場からは、そもそも国際人道上一侵略国が享受すべきでない一権利が存在しないから差別適用論が当てはまる余地がないこと、が明らかとなった。ウクライナ戦争に関して言えば、圧倒的にウクライナよりロシアによる国際人道法違反を非難する報道が多く、逆にウクライナの違反を指摘する NGO レポートには「ロシアを利する」との非難が向けられたが、それらは法的な議論とは言い難く、ましてや差別適用論を主張するものではなかった。

②の検討では、まず、反徒の法的非対称性ゆえに差別適用論を正面から主張する学説が存在しないことが明らかとなり、国内法や国際人権法上は別として国際人道法上は反徒も国家と同様の義務を負うとする立場が一般的であった。ゆえに、敵対行為遂行における targeting についても、反徒軍構成員は国家軍構成員と同様に敵対行為に直接参加しているかに拘らず何時でも合法的攻撃対象になるとされるが、翻せば国際人道法は反徒軍構成員が国家軍構成員を一逆の場合と同様一攻撃（殺傷）すること自体を許容していることになる。しかし、諸国は従来から一貫して反徒軍構成員に戦闘員免除（＝国際人道法に従う殺傷には国内法上の刑事責任を免除する）を認めていない。この矛盾する法状況はいかに整合的に説明がつくのか。管見の限り、それを突き詰めて検討する学説は未だ存在していないようであり、これこそが今後の私の研究課題であることを発見した。次に、事実上軍事能力に差のある国家間の国際人道法適用は実質的平等の観点から差別すべきで、より軍事能力の高い国家にはより高い水準の義務を課すべきとする考え方についても、深く検討する学説がほとんど存在しないことが明らかとなった。例外的に、Gabriella Blum, "The Paradox of Power: The Changing Norms of the Modern Battlefield" Houston Law Review, Vol.56 (2019)によれば、主に米国など先進国において、戦闘員と文民をより精確に区別できる兵器を選択し、かかる兵器による軍事目標攻撃から生じる付随的な文民損害は限りなく最小化すべき

との考え方が生じており、その流れに沿って近年の兵器・技術開発（ドローンやAI兵器）が行なわれてきたと指摘する。もっとも、ドローンについては、攻撃側は一切の生命喪失リスクを負わないのに対し被攻撃側はまさに「機械的に」殺傷の対象となるという巨大な非対称性、それゆえの倫理問題が惹起される。AI 兵器、とりわけ人間の判断を介在させず機械(ロボット)が自律的に殺傷を行なういわゆるLAWSに至っては、たとえ従来より目標区別原則や均衡性がより高い水準で遵守できるとしても、人間の生命喪失に人間が責任を負わないことそれ自体の非倫理性が問われる。したがって、軍事能力の差というとき、もはや伝統的な軍事能力（兵器・弾薬の物量や兵士の数及び屈強さ）だけでは済まない新たな関数を考慮する必要があり、それに伴って国際人道法の義務内容を適切に解釈すべきことが、差別適用論の前提として求められる。

以上から、現段階においても国際人道法の交戦者平等原則は未だ一般的な妥当性をもつと言えるが、上記②の検討で明らかになった諸問題が残されており、今後の差別適用論の議論はそれらを念頭に行なわれるべきことが明らかとなった。しかし、そのような角度から問題提起する学説は未だ少なく、この穴を埋める研究が必要である。

Ⅱ　本事業実施により得た成果・効果等

主に以下 3 つの成果が得られた：

①宮崎公立大学紀要第 30 巻 1 号への寄稿

「国際人道法と紛争当事者内関係（intra-party relations）の規律」を掲載した。

②国際会議への参加

2022 年 12 月 3 日、赤十字国際員会（IC RC）と日本外務省等が主催する「2022 年国際人道法模擬裁判日本予選大会」（オンライン）において、裁判官役を務めた。当日のプログラムおよび参加者紹介 ⇒予定表.pef

③研究報告

2023 年 4 月 29 日の九州国際法研究会（西南学院大学）にて、「国際人道法における『敵対行為への直接参加』概念の多角的再検討」と題する研究報告（50 分）を行い、他の研究者から活発な質問と意見交換を行なった。

以上は、本学の教育・研究の質の向上および本学の認知度向上に役立つものであった。

Ⅲ　問題点および今後の課題等

実施概要で述べたように、本事業により新たな研究課題が明らかとなった。よって、今後は、それらの課題を理論的かつ整合的に検討することが重要と考える。

Ⅲ　連　携　協　力　事　業

宮崎市教育委員会等との連携協力

宮崎市教育委員会との令和4(2022)年度連携協力事業については、以下のとおりである。

1　宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう、昨年に引き続き半年間、英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

2　宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3､4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成26(2014)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

3　大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう平成27(2015)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

4　大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3､4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成29(2017)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

5　大宮中学校における不登校生徒への支援活動
教員を目指している学生が、不登校生徒への支援活動を行う。

●3年生4名参加

6　その他の活動

宮崎西中学校における学校支援ボランティア

①　サマースクール支援（夏季休業中）

夏休み期間中のサマースクール（学習会）において、教職課程を履修している学生が中学生への学習支援を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

②　英語検定二次試験面接指導

英語検定を受験する生徒を対象にした二次試験（面接）の指導に、教職課程を履修している学生が面接官役になって指導を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

③　英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3､4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成30(2018)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

7　第15回ひむかかるた競技大会

令和4年11月26日(土) 宮崎公立大学体育館において開催した。

(1) 目　　的　　宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
(2) 主　　催　　ひむかかるた協会
(3) 共　　催　　宮崎市教育委員会　宮崎公立大学
(4) 後　　援　　宮崎県教育委員会
(5) 競技種目　　団体戦
(6) 参加資格　　小学生の部　　県内在住の小学生

※　詳細は89ページに掲載

＜宮崎県教育委員会主催事業＞

スクールトライアル事業への参加（短期：3日間）

昨年度に引き続き、教員を目指す2､3年生に対して、教育実習とは別に、教員の業務に対する理解や子どもとのコミュニケーションを図る機会を提供する。

●2年生12名参加

＜宮崎市教育委員会主催＞

宮崎市特別支援教育学生ボランティア活動（1年）

教員を目指す学生に対して、特別支援教育の理解を図るための機会を提供する。

●4年生5名参加

行　事　名	第 15 回　ひ む か か る た 競 技 大 会
目　　的	宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み、高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
実施日時等	令和 4 年 11 月 26 日（土）9 時 00 分～15 時 30 分
会　　場	宮崎公立大学　体育館
主　　催	ひむかかるた協会
共　　催	宮崎市教育委員会・宮崎公立大学
後　　援	宮崎県教育委員会
競 技 種 目	団体戦
参 加 資 格	小学生の部：県内在住の小学生
参 加 者 数	ひむかかるた競技：8 小学校より、団体戦 20 チーム　合計 60 名
参　加　料	無料
資　格　等	団体戦各小学校 4 チームまで。
競 技 方 法	団体戦、個人戦ともに予選はリーグ戦、決勝はトーナメント戦にて行う。予選リーグの対戦については、事前申し込みに従い前日までに実行委員会が代理抽選にて決定する。
競 技 規 則	別に定める「ひむかかるた大会競技規則」による
審　　判	競技規則に基づき公認審判員が努める。
表　　彰	1～4 位を上位入賞者とし、表彰する。また参加選手全員に参加賞を授与する。

宮崎公立大学と市教育委員会の協力の下で誕生した、宮崎の郷土かるた「ひむかかるた」の競技大会を、およそ 2 年半ぶりに完全対面型で開催した。

競技には、市内県内 8 小学校から、団体戦（3 人 1 チーム制。各小学校 4 チームまで参加）20 チーム 60 名が参加した。今回はポストコロナ後初となる本格開催となったが、未だ完全な形での被害拡大の収束を迎えていない状況を鑑み、午前中の予選リーグを 3 試合とし、種目を団体戦のみとするなど、従来よりも縮小規模で臨んだ。

参加校は 8 校に留まったものの、真剣に試合に臨む子供たちの姿勢には目を見張るものがあった。また、各選手の力量も、コロナ前と比べそん色なく、コロナ禍にあっても各学校の教育現場においては、かるたに熱心に取り組んでいただいたことが確認できた。公立大、市教育委員会の共催の下で、大会規模、かるた普及の完全回復、さらなる発展をめざしてきていると考える。

【競技のもよう】

・午前 10 時 00 分より開会式、引き続き第一試合が行われた(コロナ禍後の規模縮小方針により、開会式は簡素され、従来の来賓祝辞等も見送られた)。
・競技は団体戦のみで争われ、昼休憩(12 時～13 時)をはさみ、午前中は予選リーグ 3 試合、午後は決勝トーナメント 3 試合が行われた。
・団体戦は宮崎南小学校 A チームが優勝した（個人情報保護の観点からチーム名、選手名は記さない)。決勝は宮崎南小学校勢同士の戦いとなった。宮崎南小学校からは 4 組が参加したが、いずれも強力メンバーをそろえたチームばかりであった。
・参加校数選手数とも、コロナ禍直前に行われた第 13 回大会の半数ほどではあったが、試合ではコロナ前同様に、ハイレベルな技の攻防が相次いだ。特に午後の決勝トーナメントでは、白熱した試合が展開された。
・今回も宮崎南小学校が上位を独占する結果となった。宮崎南小学校では、ひむかかるたを用いた教育、課外活動等、独自の活動をここ数年行っていただいていている。コロナ禍においてもその取り組みは継続して行われており、今回もその成果が反映されたものと考えられる。
・今回出場した 8 校は、コロナ禍において協会による訪問普及活動も規模縮小を余儀なくされた中でも、かるたを用いた教育に継続的に取り組んでいただいた学校である。今回の大会では、コロナ禍にあっても、現場の教諭の方々や子供たちが、日ごろからかるたに真剣に取り組んでくれていたことが確認できたと考える。

【今大会の特徴】

①大会開催期日と規模

・今大会を開催するにあたり、年度当初はコロナ禍鎮静の可能性がまだ見えていなかったことから、開催計画にいては、年度当初から複数案を計画的に配置しながら決定した。具体的には当初コロナ禍にある一定以上の収束がみられた場合には、第 1 案として 11 月 26 日の従来規模での開催を目指し、その後状況を見ながら大会規模や時期の順延を検討することとした。
・結果としては令和 4 年 9 月以降、コロナ第 7 波が収束に向かっていったことから、規模を縮小し、感染対策を十分に行ったうえでの開催となった。

②企画・運営・演出面

・大会規模の縮小として、種目数の削減(団体戦のみの開催)、試合数の削減による開催時間の短縮、開会式・閉会式も大幅に縮小して実施した。また、選手、観戦者の安全面に、マスクを着用しての対戦とし、一試合ごとに各コートの消毒を行った。
・演出面では、第 12 回、13 回大会で実験的に行った団体戦参加のチーム名登録を、本年度も引き続き義務化した。これは、チームとしての一体感を出すとともに、子供たち自身とふるさと宮崎の関係について考えてもらうことを狙ったものである。大会当日は、昨年度にも増して子供たちの宮崎愛を感じさせる、ユニークで個性的な名前のチームで満ち溢れることとなった。
・運営面では、これまで好評だった BGM による演出は今年も行われた。特に昨年シンガーソングライターの大野勇太氏に作詞・作曲を依頼した「ひむかかるたの歌」をイメージソングとして随所に流すことで、大会全体のまとまったイメージ作りをすることができた。
・また、大会運営に当たり、昨年同様ひむかかるた事業協力校の先生方、小学生、ひむかかるた OB の中学生たちに参加いただき、大会を大いに盛り上げていただいた。近年の大会で見えてきた「子供たち及び先生たちのひむかかるた」という大会の性格も、かなり明確になってきたと考える。審判、あるいは運営スタッフとして大会に参加することは、選手として勝負を争うこととはまた違った喜びを与える。大会を追うごとに運営に子供たちがかかわる傾向は、本来の

かるたの魅力、事業の狙いから考えれば、まさに理想的な展開であるといえる。今後ますますのかるた普及への効果を期待して充実したものとしていきたい。

・事前告知、事後の報告については、大会の事前広報活動（大会告知、宣伝ポスターの発行）や当日の運営の主要業務はひむかかるた協会事務局を中心とした実行委員会が行った。特に今回は無理のない参加をお願いする観点から、各小学校への訪問指導や宣伝ポスターの配布等は最低限度とし、協会ホームページでの情報発信を中心とした。

③参加学校について

・参加校数については、コロナ禍直前に行われた第 13 回大会の 17 校から半減し 8 校となった。しかし前述のように、大会における選手たちの熱量、技量にはコロナ禍以前に比べても決して劣らないものが確認できた。またこの 2 年間は協力校事業も大幅に縮小を余儀なくされたことも併せて考えると、むしろ今後のかるた事業の立て直しと発展を考えるうえで、前向きに評価されるべき数字であったと考える。

④「ひむかかるたオープン戦」および「ひむかかるたシンポジウム」について

・令和 5 年 2 月 23 日に、「ひむかかるたオープン戦」および「ひむかかるたシンポジウム」を宮崎公立大学において開催した。これはコロナ禍での各小学校の取り組みの継続や発展が確認できたこと、かねてより幼児教育における各園での取り組みとの連携、中学生以降のかるた OB との接続等をにらみ、今後のかるた普及活動を方向付けるためのイベントとして急遽企画されたものであり、オープン戦は宮崎公立大体育館、シンポジウムは宮崎公立大 103 教室にて開催された。
・9 時 30 分～11 時 30 分に行われた「ひむかかるたオープン戦」は、全試合団体戦のみ、セルフジャッジ式 3 試合(予選リーグ 2 試合、優勝決定戦 1 試合)とし、各リーグごとの優勝を争う形式とした。年齢・居住等の参加資格を問わない形で参加を募集したところ、県内外から 38 チーム 114 人が参加し、和気あいあいとした雰囲気の中で、楽しく覇権を争った。
・午後からのシンポジウムでは、ひむかかるたの創始者であり、協会顧問でもある新井克弥氏(関東学院大教授)をコーディネーターに、かるた大会を含む、これまでの普及活動を総括し、今後の方向性の模索が議論された。構成は下記のとおりである

第 1 部　事例報告
・佐多　修(宮崎市立宮崎南小学校)「教室にひむかかるたを～つなぐ・ひろがる・ひびきあう～」
・山口　孝治(宮崎市立宮崎西小学校)「かるたがつなぐ、かるたとつなぐ」
・橋口　隆子(うちやまこども園)「遊びの中の学び～宮崎大好きっ子～挑戦！勝負の楽しさって？」

第 2 部　パネルディスカッション
討論者
　内藤　泰夫（前宮崎県芸術文化協会会長、元宮崎公立大学理事長）
　白石　知子（宮崎国際大学教授）
　山森　達也（アーツカウンシルみやざき・プログラムディレクター）
コーディネーター
　新井　克弥（関東学院大学教授）

【今後に向けて】

・「ひむかかるた大会」をはじめとする一連のひむかかるた普及事業については、これまで「ひむかかるた協会」を中心に、市教育委員会、宮崎公立大学の強力な支援を仰ぎながら、順調な発

展をとげることができたと考える。宮崎公立大学から、地域への地域貢献としてスタートした事業が、10 年を経て地域に根付き、地域と公立大が連携して行う活動へと育ちつつあることを、あらためて実感する次第である。

・とりわけ本年度については、従来の活動が、現場の先生方のご尽力により、コロナ禍の中で継続できたことは大きい。小学校に加え、保育園・幼稚園における普及活動も、コロナ禍においてなお継続していただいている。ここ数年来の課題であった、幼児期、小学校、中学校とつなげ、故郷に対する単純な愛着心を作るだけでなく、広く協同性や寛容性をも育む、新しい郷土の実現に向けて、再びスタートする元年になったと考える。
・新型コロナウィルスの位置づけが 5 類に変更される令和 5 年度以降、この方向性を基本としながら、ポストコロナ状況を鑑みつつ全体プランを練り直し、かるたの普及に努めていきたいと考える。これまでの活動において、宮崎公立大、市教育委員会及び各小学校との間に作ってきた協力関係をベースに、新たに宮崎保育会の支援もいただきつつ、幼少期から活動として発展させていきたい。
・ひむかかるた関連事業は、令和 5 年度には 16 年目を迎える。これまで活動を発展的に継続できたことに関して、関係各位には厚く御礼を述べるとともに、これからも変わらぬご尽力を賜るよう、切にお願い申し上げる次第である。

文責・梅津　顕一郎（本学人文学部准教授、ひむかかるた協会会長）

宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力

◎ 令和 4(2022)年度業界研究セミナー講師派遣　(宮崎銀行)

本学が実施した業界研究セミナーに、講師として行員を派遣いただいた。

(1) 実　施　日　令和 5 年 1 月 19 日（木）

(2) 参 加 者 数　5 名

◎ 「キャリア設計Ⅱ」の講義での企業訪問受け入れ(宮崎銀行・宮崎太陽銀行)

本学の後期開講科目である「キャリア設計Ⅱ」で実施する学生の企業・自治体インタビューの受入を行っていただいた。

（宮崎市地元とつながる人材育成支援事業/「宮崎×キャリア」の探求 2022）

(1) 実　施　日　令和 4 年 11 月 29 日（火）

(2) 参加学生数　宮崎銀行　10 名・宮崎太陽銀行　11 名

宮崎商工会議所との連携協力

1　日商簿記検定

日商簿記検定(第 161 回検定)の試験会場として、学内施設の貸出を行った。

・実施日：令和 4 年 6 月 12 日（日）

2　みやざき観光・文化検定

みやざき観光・文化検定の試験会場として、学内施設の貸出を行った。

・実施日：令和 4 年 12 月 18 日（日）

令和４年（2022 年） 10 月１日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（1）～公立大学時事問題講義から
新聞の基礎

宮日と考える
宮崎の明日
～公立大時事問題講義から

▽▽1

新聞の基礎

宮下拓（みやした・たく）ニュースセンター１部参事。2014年入社。整理グループ編集委員、都城支社長、読者室長などを経て22年４月から現職。横浜市出身。52歳。

「伝える力」身に付く

「新聞はどれも同じ」ではない。一番の違いはニュースの価値判断。宮日は本県の事柄を中心に記事の扱いの大小を判断しており、編集に際しての物差しは「読者と共感、県民と共感」の価値観だ。

紙面は「逆三角形」で構成される。情報の重要な点から①見出し（要点）②第１段落（リード、要約）③本文―が並ぶ。本文も段落順に必要な内容から書く。大きな活字、前の文から読み進めれば理解しやすいよう編集している。

逆三角形の思考法は考えをまとめる時や論文の執筆、就職後の業務報告の際にも役立つ。まず結論から。そしてコンパクトかつインパクトある言葉で要点を示す。宮日は読者の代わりに見て、伝える報道を80年以上続けている。そのコミュニケーション力は、情報生産者をこれから目指す皆さんの参考になるはずだ。

見出しは情報の器である。例えば「Ａさん赤ちゃん出産」と「Ａさんに第２子長女」は同じ９字でも内容量が違う。短い言葉に要素を盛り込む見出しに慣れることで、簡潔に伝える力が身に付く。

新聞はテーマごとに紙面が編集されている。そして関心事以外の記事も目に入り、興味が広がる偶然の出合いも待っている。言葉が毎日更新される新聞は、ネット検索にも有効。情報の質量が変わる。

新聞の読み方の例として紙面から「見習いたい人」を探そう。多様な記事の中に心の琴線に触れる誰かがいる。自分自身の関心の方向性を知ることで、キャリア形成を考える上でのヒントが得られる。

学生の感想

【３年、井久保幸鷹さん】インターネットで玉石混交の情報を浴びるように受信する中、情報の価値判断を行い、自身で選択を行うことを習慣付けていきたいと思う。新聞は情報の中で重要な部分と枝葉の部分を区別する方法を学ぶのに役立つと思う。

【１年、岩尾百香さん】授業のプレゼンなどで、だらだら過程を話すのではなく最初に結論を話すよう心がける。

【１年、森楓華さん】伝える力を伸ばすため、客観的視点を持ち正確に理解できる情報発信を心がける。地方紙宮日を読むことで読者に寄り添う文章を学ぶことができる。

【１年、奈須成美さん】人に物事を伝える際、より相手が理解しやすい言葉選びは重要で、事実や意見を裏付ける根拠や経験を加えることで説得力が増すと考える。新聞はさまざまな分野が掲載されているため、文章を読むことに興味を持ちやすく、取り組むきっかけになると考える。

【３年、佐藤翔悟さん】端的にまとめる力、興味を抱いてもらえるワードセンスを磨く必要がある。新聞を読むことで５Ｗ１Ｈの基礎や語彙（ごい）力を伸ばし、話す際の順序立てができるようになるのではないか。

令和４年（2022年）　10月８日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（2）～公立大学時事問題講義から
ＮＩＥ

宮日と考える
宮崎の明日
～公立大時事問題講義から
▽▽2

ＮＩＥ

ＮＩＥという言葉を聞いたことがあるだろうか。これは「Ｎｅｗｓｐａｐｅｒ　ＩｎＥｄｕｃａｔｉｏｎ（教育に新聞を）」というもので、教育現場で新聞を教材として活用する取り組みだ。

黒木友貴（くろき・ともたか）読者局読者室読者企画委員。1993年入社。編集局文化部、都城支社、地域情報部などを経て2022年4月から現職。都城市出身。52歳。

「自ら学ぶ力」を創造

ＮＩＥは1930年代に米国で始まり、日本では1985（昭和60）年の新聞大会で提唱されスタートした。デジタル化やグローバル化で急速に社会が変化する中、課題解決やアイデアの創造を可能にする「自ら学ぶ力」を身に付けることが子どもたちに求められており、そのためにもＮＩＥによって読解力を磨き、社会への関心を高めることが必要となっている。

宮崎日日新聞では宮日こども新聞の発行をはじめ、窓欄「若い目」、出前授業「学校に宮日がやってくる」など、ＮＩＥに関する紙面作りや活動を展開。県ＮＩＥ推進協議会と連携し、学校での新聞活用を進めている。今年８月にはＮＩＥ全国大会宮崎大会が開催された。本県では初開催で、宮崎のＮＩＥ活動における大きな節目となった。

学校現場におけるＮＩＥの取り組み内容は多種多彩だ。授業内容と絡めて新聞記事を活用するといった基本的なものから、記事やコラムの要約、学校行事を取材しての壁新聞作りなど、先生たちの創意工夫が凝らされている。

ＮＩＥの先にはＮＩＢ（ビジネスに新聞を）という活動もあり、今後ますますＮＩＥへのニーズは高まっていくだろう。これからは、いかにしてＮＩＥ実践の輪を広げていくかが課題となる。

学生の感想

【１年、西永陽菜さん】小学生の時、新聞作りなどの活動を通じて新聞の面白さに気付いた。ＮＩＥは新聞を読む良い機会になるので、これからも続いてほしい。

【１年、今村日向子さん】ＮＩＥという言葉になじみはなかったが、新聞を使った授業を受けたことがあり、知らないうちにＮＩＥを経験していたと分かった。新聞を通じて社会情勢などを知り、教育現場で理解を深めていくことが大切だと感じた。

【１年、柏田彩花さん】読解力の養成やキャリア教育など、ＮＩＥには無限の可能性があり、ＮＩＥ全国大会宮崎大会スローガン「いまを開き未来を拓（ひら）く　ＮＩＥ」は、まさにそうだなと感じた。

【１年、佐々木美和さん】ＮＩＥという取り組みを初めて知ったが、新聞を取っていない家庭の子供でも新聞に触れる機会が得られ、とても良いことだなと感じた。

【１年、山口あいりさん】小学生のころ宮日こども新聞を読んでいて、俳句や短歌のコーナーに作品が掲載され、うれしかった記憶がある。これからも新聞を読み、自ら考える時間を持つことで、社会に出たときに役立つ力を身に付けられると思う。

（７日の講義から）

令和４年（2022 年） 10 月 15 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（3）～公立大学時事問題講義から
台風 14 号と災害報道

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽3

猛威を振るった先月の台風14号。本県への影響や被害を記事と写真で振り返るとともに、災害時における地方紙の役割について考えたい。

中川美香（なかがわ・みか）報道部長。1993年入社。報道部、日南支社、文化部次長、論説委員、生活文化部長を経て2022年4月から現職。都城市出身。51歳。

台風14号と災害報道

復興への道のり共に

台風は18日に本県に最接近し、県内15市町村で大雨特別警報が発表され、県北部で線状降水帯の発生が2回確認された。降り始めからの総雨量は美郷町神門で千ミリ近くに達した。被害は大きく、3人が亡くなり、家屋の浸水、土砂崩れによる道路の寸断などがあった。停電、断水、鉄道の運転見合わせなど暮らしへの影響は長引き、農林漁業被害、さらに五ケ瀬町のスキー場の今冬営業断念など各種産業が打撃を受けている。関係者の落胆は大きい。

特に山間部の被害は深刻で、道や橋の崩壊で孤立状態になった集落も目立った。今も買い物や通院、通学などに困っている住民がいる。その思いや地域の現状を宮崎日日新聞社の支局・支社、報道部、写真映像部の記者たちが現場に足を運んで伝えている。人口が減少し担い手も少ない中で、住民が安心して暮らせる地域をどうつくっていくか。台風14号が投げかけた課題は大きく、議論が必要だ。

災害報道は、起きたことを伝える、記録する▽節目ごとの検証▽防災・減災に向けた啓発―などが大切といわれる。地方紙にはこれに「住民に的確に危険性を伝える」「ライフライン情報など役立つ記事を出す」、そして「復旧・復興までの道のりを共に歩む」姿勢が重要と考える。住民の福祉と住みよい地域づくりに寄与するのが本紙の責務だ。

学生の感想

【１年、蓑﨑桃花さん】大きな被害が出た台風だったのだと実感した。特に被害が出た地域で、住民が互いに支え合っていたことも分かった。

【１年、川口倫加さん】被災した地域や住民の声に注目することが大切だと思った。助けを求める声を伝えることで、復旧を手伝う人が増えるなど県全体が協力的になる。

【４年、矢野伊吹さん】地方紙は住民とのつながりが強い。被災した地域から「現状を知ってほしい」と連絡も来ていた。被害の報道だけでなく、県民に役立つライフライン情報も提供していて、〝プラスアルファ〟を報道しているのが地方紙だと認識した。

【１年、川原なおさん】地域の復旧・復興に向け大切なのは、現状を知り自分にできることを探すことだと思った。視野を広くして新聞記事やニュースを見ていきたい。

【３年、井久保幸鷹さん】過去の災害の記憶や被害が出やすいコースなど、地域に根差したメディアならではの蓄積があるように感じた。また生活をどう取り戻していくかという視点で、災害後の状況を伝えている点が印象的だった。地方紙の当事者意識の強さは、大手メディアと比べたとき、大きな特長だと思う。

（14日の講義から）

令和４年（2022年）　10月29日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（4）～公立大学時事問題講義から
全国和牛能力共進会

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽4

全国和牛能力共進会

まだ興奮冷めやらぬ全国和牛能力共進会（全共）鹿児島大会（6～10日）のチーム宮崎の活躍を振り返り、全国2位の規模を誇る本県の和牛生産

奈須貴芳（なす・たかよし）
報道部次長。2002年入社。制作部、写真部、報道部、日南支社、経済部次長などを経て21年4月から現職。宮崎市出身。44歳。

和牛に新たな価値観

についても理解を深めたい。

鹿児島大会で県勢は新設された肉牛の部7区（脂肪の質評価群）で優等首席（1位）に輝き、同部の最高賞・内閣総理大臣賞も獲得。3区でも優等首席、全9区分中5区分で優等2席（2位）となった。大きなプレッシャーの中、「日本一の努力と準備」を合言葉に快挙を成し遂げた関係者に敬意を表したい。

特に7区を制した意義は大きい。同区はサシの量だけでなく、うま味や口溶けに影響するとされるオレイン酸含有率など、脂の質にも着目して順位付け。多様化するニーズに対応した和牛の新たな価値観を示す注目区で、今後5年間、「おいしさ日本一」をPRできる恩恵は計り知れない。

若手の活躍もまぶしかった。特別区の小林秀峰高生のほか、20代の農家も活躍。前回宮城大会に出場した高校生は現在、和牛生産農家やJA職員、削蹄師などとしてたくましく成長して地域をけん引しており、全共への取り組みが後継者育成につながっていることを改めて実感した。

県産牛の輸出は2016年度は280トンだったが、20年度は686トンまで増加し、今後はイスラム圏への売り込みも加速する。和牛生産は、製造や運輸、観光など関連産業への経済的な波及効果も大きい。振興を図ることは、本県の地域活性化につながると信じている。

学生の感想

【1年、吉田智貴さん】和牛生産は経済効果が大きい産業だと分かった。これからも良い成績を収めて海外に宮崎牛をアピールし、宮崎の経済が潤うことを期待したい。

【1年、山口航史さん】多くの関係者の宮崎牛に対する熱い思いを知り、食材を無駄にせずおいしく頂くことで感謝を伝えたいと思った。

【1年、田上栞菜さん】全共で競い合うことで、お肉の質が向上していると気付いた。鹿児島県出身で地元の活躍も知ることができた。いつかは生で全共を見てみたい。

【1年、鎌田倭さん】2010年に宮崎県で発生した口蹄疫の説明もあり、それを乗り越えて内閣総理大臣賞を獲得し続けているのは、計り知れない関係者の努力があるからだろうと感じた。

【1年、長井蒼葉さん】焼き肉屋でアルバイトをしており、「宮崎牛おいしいね」と言われることも多い。全共や生産者のことを学び、宮崎牛をより宮崎の強みにすべきだと思った。

【2年、平田萌さん】繁殖農家と肥育農家の違い、種雄牛（しゅゆうぎゅう）や種牛、肉牛などについて知ることができた。全共に向けては人と同じように毎日シャンプーすることに驚いた。

（28日の講義から）

令和４年（2022 年）　11 月５日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（5）～公立大学時事問題講義から
新聞における写真の役割と力

宮日と考える
宮崎の明日
～公立大時事問題講義から
▽▽5

新聞における写真の役割と力

記事や写真、イラストなどが配置された新聞紙面は見やすく、読む人の理解も早い。記事で表現することが難しいものでも写真1枚で伝えられる。読者に目を留めて記事を読んでもらうため、よりインパクトのある写真を撮ることが求められている。

中島雅隆（なかしま・まさたか）写真映像部長。1987年入社。写真部次長を経て、2015年4月から現職。宮崎市出身。58歳。

ビジュアル化も重視している。「ラッピング」といって1枚写真を2ページ見開きで掲載したり、季節の便りをパノラマ写真で紹介したり、読者にインパクトを与える紙面づくりに務めている。昨年4月からはモノクロ写真をカラー化する「色の記憶」を連載。読者からは好評を得ている。

記事の信頼性高める

インタビュー記事にはポーズ写真を使う。これは、本人にきちんと取材したという証明で記事の信頼性を高めるものだ。また、顔写真も同じような意味を持つ。これは、顔を識別できる写真の正確さが認められているからだ。

2016年4月の熊本地震の際は、女子プロゴルフ取材のため写真映像部員が熊本市内に滞在していた。すぐに無事を確認し、「取材しながら避難せよ」と指示。危険も伴っただろうが、目の前で何かが起これば、レンズを向けるのがカメラマンのさがだ。

スポーツ面で同一競技を数枚掲載するときは、さまざまなシーンを見逃さないように撮影している。同じような写真が並ぶと、変化に乏しい紙面になりかねない。スポーツに限らず次に何が起こるかを予想しながらファインダーをのぞき、「宮崎の今」を切り取っている。

学生の感想

【１年、奈須成美さん】パノラマで撮られた写真は、その場所や景色の全体像を見ることができ、実際に自分がそこにいたように思える。紙面に大きく載っていると迫力を感じることができる。

【１年、髙城結衣さん】写真は現場の様子を伝えるだけでなく、写真は正確であり信用性があるということがわかった。写真の持つ意味が理解できたので、記事と合わせながら大事に見ていきたい。

【１年、濱砂慧花さん】新聞写真は加工なしで情報を無駄なく正確に伝え、しかも読者の心に確実に届く。季節の移り変わりを伝える１枚でも思いが込められて撮影されている。

【１年、戸髙愛理さん】写真はただ対象のものを写すだけでなく、一つのテーマでもたくさんの下見を行って掲載していることが理解できた。読者に、一目で印象的に思える写真を選ぶまでの過程が分かった。

【２年、西村皇希さん】予想だにしない状況に遭遇しても、少しでも記録に残さなくてはという信念の強さを垣間見ることができた。状況に応じて一眼レフやスマートフォンなどを使い分けていることに興味を感じた。

（４日の講義から）

令和４年（2022年）　11月12日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（6）～公立大学時事問題講義から
ラグビー日本代表とW杯

宮日と考える
宮崎の明日
～公立大時事問題講義から
▽▽6

ラグビー日本代表とW杯

2019年にラグビーのワールドカップ（W杯）が日本で開かれ、日本代表が初のベスト8に進んだことは記憶に新しいだろう。日本代表は宮崎で強化合宿を続けている。11年から定着し確実に力を付け、W杯で結果を残した。

斉藤真広（さいとう・まさひろ）編集委員室長。1991年入社。運動部次長、報道部次長、日南支社長、整理部長などを経て2022年4月から現職。宮崎市出身。55歳。

1990年に初めて合宿を行い、2000年前後にも訪れたが、実力は世界からはるかに後れを取っていた。宮崎合宿も一時途絶えたが、11年から定着。最高の環境の中、選手の意識改革、日本人の強みを生かした戦略などチームの整備が進んだ。結果、15年のW杯では、屈指の強豪・南アフリカを下し「世紀の番狂わせ」と世界を驚かせた。19年には予選リーグ4戦全勝で決勝トーナメントへ進んだ。

宮崎から勝利後押し

日本代表が合宿地に宮崎を選んでいるのは、地元の協力が大きい。2000年以前には、ほとんど手弁当で宿舎の手配や練習場確保などに動いた。11年からは県や県ラグビー協会がバックアップする。その熱意やサポートも、日本代表の躍進を後押ししている。

ラグビーW杯は、五輪やサッカーW杯と並ぶ世界三大イベント。23年にはフランスでラグビーW杯がある。県は日本代表の拠点を狙い、屋外型トレーニングセンター建設を進める。さらにサッカーなどのトップレベルのチームを呼び込み、宮崎の発信と大きな経済効果も期待している。

来年のW杯メンバー入りを競う40人の中に本県出身選手が2人もいる。日本代表となる可能性は2人とも十分にある。合宿地の環境整備も含めて、県民として応援したい。

学生の感想

【3年、井久保幸鷹さん】日本代表の宮崎での活動や、地元の人々のサポートなどが細かく記事になっている。地元と、全国や世界の動きとどのようなところでつながっているか確認できるのも、地方紙の面白さだと感じた。

【1年、西嶋彩乃さん】日本代表の飛躍は、選手の力だけでなく、地元の力もあるのだと知り、「支え」の大切さを学んだ。

【1年、西永陽菜さん】ラグビー日本代表には外国人選手も多くいることに驚いた。しかし、チームが多様性を体現することで、ラグビーを通して世界に多様性を広めることができると考える。

【1年、田上栞菜さん】屋外型トレーニングセンターなど、スポーツ施設が増えるのはいいこと。観光面でも宮崎を象徴するものになるのではないか。ラグビー日本代表の拠点にもなるのだから、ラグビーファンに聖地のような認識を持ってもらえたらいい。

【1年、柏田彩花さん】宮崎で合宿した後、2015年W杯で南アフリカに勝ったことは誇らしい。スポーツを通しての経済効果も大きく、宮崎は「スポーツの県」と改めて感じた。

（11日の講義から）

令和４年（2022 年） 11 月 19 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（7）～公立大学時事問題講義から
コロナ禍行政と報道の役割

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽7

コロナ禍 行政と報道の役割

伊佐賢太郎（いさ・けんたろう）報道部次長。1999年入社。報道部、運動部、日南支社、西都支局長、整理グループ次長などを経て現職。宮崎市出身。48歳。

新型コロナウイルスの感染拡大は暮らしを一変させ、感染対策や経済回復を担う行政はスピードに加え、的確さと柔軟性が求められた。国内での感染初確認から来年1月で3年。未曽有の事態への対応に地方自治体は住民ニーズを聞きながらの対応が続く。

感染者数の把握、PCR検査、外出自粛要請、飲食店などへの休業・時短営業要請、ワクチン接種、経済対策…。政府主導の対策が打ち出される中で状況は刻々と変化し、地方行政は力量が問われた。

新聞報道もまた、的確かつ迅速なニーズ対応が求められた。流行波を重ねる中で読者の関心事項も変化。多様なデータ提供と分析を基本とし、今求められている情報は何かを見極めながら報道を続けている。

迅速、的確な情報提供

そして、「行政の支援が届かず取り残されている人はいないか」。この視点も重要視している。コロナ禍は子どもから高齢者まで世代を問わず影響し、職業などの立場が違えば困窮するものも変わってくる。届く声はさまざまであり、それらを記事化することで行政などにも問題提起していきたい。

訪日客が訪れるなど本県でも経済が動き出そうとしている一方で、流行「第8波」が迫っている。感染の封じ込めと社会活動を停滞させないことを両立する手段は確立されていないが、自治体を少しでも活発化させていく必要がある。12月に知事選、来年4月には統一地方選が行われる。先行きが見えない中で、暮らしをどう変えていくか―。投票の際に考えてほしい。

学生の感想

【1年、佐々木美和さん】コロナで高校生の頃からさまざまなことを制限されたので、少しでも良い方向に向いていけばいいと思う。身体的、社会的に苦しい生活を強いられている人が認知される報道をすると、行政も動くのではないかと考えている。

【2年、西村皇希さん】個々（1人暮らし、高齢者世帯など）のニーズに合わせ、コロナウイルスに対する正しい知識を持ってもらうための情報提供を継続すると助かる人も多いのではないか。

【1年、後藤七望さん】新聞には私たち一般市民の視点から報道してほしい。全国的なニュースも大切だが、身近な視点からの報道は助かる。

【1年、鎌田倭さん】行政には感染対策はもちろん、停滞している経済を立て直し、コロナ禍前の状態に戻せるような政策を取ってほしい。新聞はより良い政策を行うよう行政に働きかけ、それらの政策がどのようなものなのかを詳しく報道してほしい。

【1年、安部美咲さん】学生生活が充実したものになるような政策を取ってほしい。新聞にはコロナ禍における地域の人々の暮らしや声を正確に報道することを望む。

（18日の講義から）

令和４年（2022 年） 11 月 24 日（木）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（8）～公立大学時事問題講義から
社会の転換点

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽8

社会の転換点

新聞は日々のニュースを記録しており、詳細な歴史書としての側面も持つ。その時には分からなくても、後になって、何げない記事が歴史や社会の転換点を記していたことに気付くかもしれない。

戸高 大輔（とだか・だいすけ）編集局次長。1992年入社。東京支社報道部長、経済部長、報道部長などを経て2022年4月から現職。宮崎市出身。53歳。

新聞が記し歴史書に

例えば、リニア中央新幹線の開業時期（品川―名古屋）を書いた2022年6月9日のベタ記事。当初予定の27年から遅れる可能性があるという内容だ。このリニア中央新幹線が開通すると、わずか約1時間の時間距離に人口7千万人を超す巨大経済圏が誕生する。ただし、効果を各地に波及させるには「交通ネットワークや高速道路ネットワークの強化が必要」（国交省検討会）。「強化」が不十分なら本県のような地方都市は恩恵を受けにくく、リニアの開業時期が中央との格差が今以上に広がる転換点となるかもしれない。

最近よく目にするコワーキングスペース（共有オフィス）の開業を伝える記事も注目したい。さまざまな人が集まる知的交流拠点として化学反応を促し、新しい「ビジネスの種」を生み出すことができれば、転換点を記した記事となるだろう。

転換点の最右翼は新型コロナウイルス。リモート、地方回帰など、暮らしぶりを変える可能性のあるキーワードが既にいくつも浮上している。ロシアによるウクライナ侵攻、中国の軍備拡大や北朝鮮の核・ミサイル開発が盛んに伝えられる今は、もちろん平和裏に収束してほしいが、場合によっては安全保障環境の転換期となるかもしれない。

学生の感想

【１年、砂田菜々子さん】私が思う転換点は新型コロナウイルス。高校１年の終わりのころに始まり、修学旅行や部活など青春が失われた感じだった。これから社会が良い方向に転換することを願っている。

【１年、福島未来さん】スマホの登場で私たちの生活はとても便利になり、これも時代の転換点だと思う。一方でＳＮＳを通して問題が増え、持つ持たないで情報格差も生まれるなど悪い点もある。

【１年、田上栞菜さん】正直に言うと、なぜ新聞を読むのがいいのか分からなかった。しかし、社会の動向や伸びてくる業種を予測できるからだということに気付いた。

【１年、吉良心那さん】自分も大分出身で、宮崎と同様に新幹線が開通しておらず不便を感じている。開通すれば多くの人が利用するようになるので、時代の転換点になると考える。

【２年、保萌生さん】最近は特に時代の転換点が多いと感じる。コロナウイルス、ロシアのウクライナ侵攻、安倍元首相の暗殺、インフレと円安などに直面しているが、新聞などで情報を得て当事者意識を強めていきたい。

（23日の講義から）

令和４年（2022年）　11月26日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（9）～公立大学時事問題講義から
コロナ禍の中小企業

宮日と考える
宮崎の明日
～公立大時事問題講義から
▽▽9

コロナ禍の中小企業

得意分野に磨きをかけて新たな価値を生み、コロナ禍、人口減・高齢化社会を生き抜く県内中小企業を紹介する。銅合金鋳造などの船舶用部品を手がける日向キャスティング（日向市東郷町）は技術力を料理鍋など生活用品に転用。２千年続く鋳物の技法を次代につなぐ社会的意義にも目覚めた。社員が働きやすい環境を整えるため、グループ会社が企業主導型保育園を運営するソリューションズ（宮崎市）は自園給食の蓄積を基にIT企業では異色の離乳食製造・販売事業に進出した。

建物防水事業が主力の宮防（同）が着手したコオロギ昆虫食は県産ちりめんじゃこを食べさせ、カルシウム含有量高めて他県産と差別化。自社製の除菌消臭剤で飼育場の衛生な環境を保つシナジー効果も発揮する。小麦アレルギーの子どもを放っておけないと、独自米粉麺を開発した川北製麺（串間市）は国内外の販路をぐいぐい切り開く。グルテンフリーという健康志向の高まりもあり、３年後の輸出額３億円を射程に入れる。

中小企業は多様性に満ちている。原材料・資材高騰など経営課題が複合化する中、あの手この手で打開策を探っている。いずれも変容するニーズをすくい取り、既存事業の在り方、経営資源の使い方をずらすことでビジネスチャンスをつかんでいる点で共通。苦難に立ち向かうことで、新陳代謝を高める過程を取材するたび「艱難汝を玉にす」ということわざが頭に浮かぶ。人の生き方にも通じ、不透明な時代に勇気を与えてくれる。

課題に多様な打開策

諫山　尚人（いさやま・なおと）経済部編集委員。1994年入社。串間支局長、報道部次長、NC整理グループ編集委員などを経て2021年4月から現職。宮崎市出身。51歳。

学生の感想

【１年、今村日向子さん】従来の事業の固定観念を取り払うことで新事業の成功につながっている。発想の転換がピンチに陥った会社を成長させる大切な要因と感じた。

【１年、濱川咲笑さん】ＩＴ企業の離乳食事業が印象に残った。アフターコロナも強みになるビジネス。自分もピンチの時は少し考えを変え、解決策を見つけていきたい。

【１年、濱崎この葉さん】不透明な先行きを明るく照らす事業に感銘を受けた。日本は食料や原料の多くを輸入に頼っており、資材高騰の今こそ、少しでも国内で自給自足できるようになるといい。

【１年、山口あいりさん】新しい分野への進出は勇気がいるが、思考を変え対応していく姿勢は勉強になる。工夫を凝らして困難を乗り越えようとする企業を応援したい。

【１年、湯浅美礼さん】鋳物シリーズなど、コロナを背景にさまざまな特徴的な商品が生まれていることが分かった。商品の作り手の思いにもっと注目していきたい。

【１年、吉田智貴さん】利他の精神で自社の利益につなげる会社が増え、成長していくことは消費者にもいい影響を与える。ウィンウィンの関係はとても良い傾向と思う。

（25日の講義から）

令和４年（2022年）　12月３日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（10）～公立大学時事問題講義から
スポーツと地域

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽10

スポーツと地域

11月にプロ野球・福岡ソフトバンクホークスと巨人が宮崎市で秋季キャンプを行い、ファンも足を運んだ。これまで、新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きかった。２021年は無観客で、今年２月は有観客だったが県外往来自粛要請が出ており、コロナ禍前に比べ来場者は激減。地元経済への影響も大きく、「スポーツランドみやざき」というキャッチフレーズで受け入れてきたスポーツキャンプ・合宿がなくてはならないものだと改めて感じさせた。

大山　俊郎（おおやま・としろう）運動部長。1995年入社。高鍋支局長、整理部次長、報道部次長などを経て2018年から現職。宮崎市出身。51歳。

合宿の経済効果実感

本県では27年に、国民スポーツ大会（国スポ、24年に国体から改称）と全国障害者スポーツ大会（障スポ）が開かれる予定。国体は注目度の低下など課題はあるが、会場となる陸上競技場や体育館、プールの新設が進んでおり、大会後の利活用が課題となる。競技力向上の取り組みも本格化しており、そこで力を付けた選手が指導者となれば、後進の育成につながる。本番だけでなく、施設整備や人材育成がその後につながっていくことが大切だ。

県内はこれまでプロスポーツチームがなかったが昨年、サッカー・Ｊリーグ３部（Ｊ３）にテゲバジャーロ宮崎が参入。野球の九州独立リーグへ来季参戦するチームも誕生し、女子サッカーチーム「ヴィアマテラス宮崎」は将来のプロリーグ昇格を目指している。こうした動きにより、地域でスポーツを楽しむような土壌ができていくといい。より高いレベルを目指す地元の子どもたちの目標となることも期待される。

学生の感想

【１年、佐々木美和さん】競技場などが造られて宮崎の選手が成長し、キャンプや大会も地域で盛り上げられるといい。そういう循環が、宮崎の魅力になるのでは。

【１年、森楓華さん】高校の４校定期戦をきっかけにスポーツ観戦に興味を持った。きっかけがあると行きやすくなるので、県外から来る友人に声をかけるなどしたい。

【１年、西村和さん】高校でラグビーをしていて、野球やサッカー観戦が趣味。国民スポーツ大会が宮崎で開かれれば、見に行ったり、ボランティアとして関われれば。

【２年、西村皇希さん】高校時代は山岳部。多角的な分野の知識を必要とするスポーツとして紹介していきたい。プロチーム発足は経済の循環に有効なので応援していく。

【１年、濱砂慧花さん】大会の経済効果などを考えながらスポーツに関わりたい。県知事選で「スポーツランドみやざき」に各候補者がどれだけ言及するか、注目する。

【１年、工藤海翔さん】サッカーのキャンプを小学生のころに見学し、モチベーションが高まった。大会やキャンプでは、会場やテレビの前で声援を送っていきたい。

（２日の講義から）

令和４年（2022年）　12月10日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（11）～公立大学時事問題講義から
実名報道

宮日と考える
宮崎の明日
～公立大時事問題講義から
▽▽11

実名報道

新聞には毎日たくさんの人の名前が載る。選挙、街の話題、事件、事故。報道は実名が原則。それは国民が社会で何が起きているのかを把握する「知る権利」に応えるためで、「当事者が誰か」は最も重要な要素の一つといえる。

ただ、プライバシー侵害や二次被害の恐れがある場合などは例外的に匿名とする。とはいえ簡単に線引きできる問題ではなく、さまざまな事情を踏まえて判断する。

「当事者」を知る要素

２０１６年７月に相模原市の障害者施設で入所者19人が殺害された事件では、神奈川県警が遺族の希望として被害者の氏名を非公表とした。特別視自体が差別だ、被害が数字でしか伝わらないという意見の一方、遺族が知られたくないと思う社会の現実こそが問題だという声もあり、議論を呼んだ。

21年７月の熱海土石流では、個人情報保護との兼ね合いで県の所在不明者の公表が一時混乱。公表すると迅速な情報収集につながった。

今年４月からは、起訴された18、19歳は「特定少年」として実名報道が可能に。全国では甲府市の夫婦殺害事件、県内では宮崎市の民家強盗事件の容疑者が初めての対象となった。実名報道した社が多かったが、対応は分かれた。

被害者の実名報道には、プライバシー侵害との批判もある。だが特別な事情を除き、重大な事件・事故でどんな人がなぜ被害に遭ったのかを明らかにする社会的な意義がある。報道機関は一つ一つ丁寧に議論して判断し、その結果に責任を持つのが原則だ。

足立　希（あだち・のぞみ）
報道部次長。１９９８年入社。報道部、都城支社、整理部、地域情報部次長、総務部次長などを経て２０２１年から現職。宮崎市出身。46歳。

学生の感想

【１年、川口倫加さん】ソウル雑踏事故で亡くなった日本人留学生の遺族が名前を公表し、娘とこの事故を忘れないでとおっしゃっていた。名前を公表することは大きな意味を持つのだと分かった。

【１年、濱川咲笑さん】逮捕され実名を報道した後に無罪となっても人間関係が壊れたり社会的地位に影響が出たりすることは避けられない。実名報道は裁判で有罪判決が出てからでもいいのでは。

【２年、平床紀貴さん】個人的には罪を犯した人の社会復帰が難しくなるため、実名報道は必要ないと思う。

【１年、鎌田倭さん】プライバシー保護も重要だが、被害者等の情報は遺族の申し出がなければ実名報道すべきだ。最期が名前も出されず静かに終わってしまうのは犠牲者として無念だと思う。

【１年、樋脇愛さん】顔写真とともに実名を報道されるのは身元がばれるようで怖く、できれば避けたい。社によって実名か匿名か異なることがあるのは知らなかった。

【１年、西原隆悟さん】園児虐待事件で逮捕された保育士が実名で写真付き（の社もあった）のには驚いた。保護者側、保育士側の気持ちを考えると複雑だ。

（９日の講義から）

令和４年（2022 年）　12 月 17 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（12）～公立大学時事問題講義から
「国文祭・芸文祭」から１年

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽12

「国文祭・芸文祭」から１年

杉田　亨一（すぎた・きょういち）生活文化部次長。２０００年入社。文化部（現生活文化部）、報道部、延岡支社、西都支局長などを経て現職。高鍋町出身。48歳。

県を挙げて取り組んだ「国文祭・芸文祭みやざき２０２０」が閉幕してから、今年10月で丸１年を迎えた。これに合わせ、本紙文化面で「主役たちの現在地」と題した企画（３回続き）を掲載した。両祭に携わった出演者や裏方、行政の担当者ら「主役」たちを取材したが、両祭を通じて本県の文化・芸術界が確かに手にしたものや、抱えている課題の一端が見えてきた。

地域や団体によっては、大会で高まった機運や人的ネットワークは健在だった。西都市内の五つの神楽保存会は両祭に合わせて立ち上げた組織を存続し、今年も合同公演を実現させた。県聴覚障害者協会は、関係を深めた映像作家と連携し、映画作りに着手している。両祭の収穫を生かし、次のステージへ進もうとするこれらの動きが出始めていることを頼もしく感じる。

継続的な振興策重要

喜んでばかりもいられない。社会が忙しくなったことなどを背景に、地域の文化活動に加わる若者や働く世代は少なくなっている。劇や音楽関係者は、新型コロナへの警戒感からかキャストや団員集めに苦労しているようだ。県は本年度、両祭の遺産を将来につなげる事業を開始したが、足元の文化状況に丁寧に目配りし、継続して振興策を打つことが重要だろう。

先日、「五ケ瀬の荒踊」が国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録された。地元住民が受け継いできた伝統芸能を、文化行政が学術的に価値付けした末の朗報だろう。今後の文化・芸術振興の追い風としたい。

学生の感想

【１年、鎌田倭さん】小学生の頃から素晴らしい文化に触れる機会を増やすことが、次世代に地域の文化・芸術を継承していくことにもつながる。授業などでさまざまな企画をすると関心が持てそう。

【１年、柏田彩花さん】次世代に文化・芸術をつなげるためには、全国規模のイベントで共演、交流する場もいいが、ＶＲ（仮想現実）などの技術を利用して若者に体験してもらうことも大切になるのではないか。

【１年、安部美咲さん】障害者と健常者を結ぶ架け橋になるのが文化や芸術。以前、障害のある子どもたちと共同制作したが、彼らの豊かな心を知る良い機会になった。

【１年、吉良心那さん】宮崎の文化・芸術の継承には、取り組みを細くても長く続けていくことが大切。行事が終わっても、全てを終了にするのではなく、少しでも新しい取り組みを行うと、さらに盛り上がる。

【１年、今村日向子さん】文化・芸術は、障害の有無にかかわらず楽しめるべきものであるべきだ。協力して活動することでさまざまな見方ができ、それが共生社会実現へのヒントになる。

（16日の講義から）

令和５年（2023年）　１月22日（日）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（13）～公立大学時事問題講義から
知事選

宮日と考える
宮崎の明日
～公立大時事問題講義から

▽▽13

知事選

佐賀　信行（さが・のぶゆき）報道部次長。２００２年入社。校閲部、報道部、経済部、えびの支局などを経て20年から現職。延岡市出身。43歳。

現、元職 異例の争い

現職の河野俊嗣氏と元職の東国原英夫氏が軸となった昨年12月25日投開票の知事選は、知事経験者が相まみえ、組織戦を展開する河野氏に対し、東国原氏が驚異的な追い上げを見せるなど異例の戦いとなった。ＳＮＳや動画投稿サイトなどデジタルツールにより、これまでにない角度から民意が膨らんでいった点も特徴的だった。

今に至る県政の大きな分岐点は、県官製談合・贈収賄事件と元知事の辞職に伴う２００７年の出直し知事選。それまでの県庁内の力学、派閥などと無縁の東国原氏が初当選し、「県庁は新しい時代を迎えた」（元職員）とされる。そして後戻りすることなく、河野氏に引き継がれた。

両氏は、昨年８月に東国原氏の立候補表明で激突の構図が固まって以降、互いを強く意識した発言で前哨戦を繰り広げ、告示後、最終盤まで激しく競り合った。特に中盤以降に選挙戦が盛り上がった印象で、前回18年に過去最低の33・90％に落ち込んだ投票率は、平成以降９回行われた知事選で３番目に高い56・69％に上昇した。

河野氏25万８６４６票、東国原氏23万５６０２票と民意が二分した選挙戦後、河野氏は「第２期河野県政という覚悟を持って臨む。政治家としても変わっていかなければならない。当選はゴールではない」と決意を述べた。任期４期目は21日から。県民所得の向上や人口減少対策、ウィズコロナの社会づくりなど課題が山積する中、かじ取り役として負託にどう応えるのか。それをチェックするのも有権者の役割。県政への関心を高め、向き合ってほしい。

学生の感想

【１年、川原なおさん】県政や政治により注目していかなければならないと感じた。昨年12月の知事選では投票率が上昇し、県民が県政に高い期待度を持っていることを示していたと思う。私もその一人。高齢者だけでなく、若者の未来も考えた策や宮崎の知名度アップ、地域活性化などにスピード感を持って取り組んでほしい。

【１年、髙城結衣さん】投票率が低いままでは国民の意思も反映されなくなってしまうので、今、選挙啓発部「ライツ」で行っている啓発運動にもっと力を入れ、若い人が自分の意思を国に届けられるように努めたい。今の日本の政治の現状を理解して改善点を知っておくためにも、もっと政治に興味が持てるような取り組みが必要だと思った。

【１年、吉良心那さん】選挙権を持ってから政治をより自分の身近に感じるようになった。今回の知事選は新聞やネットニュースで動向を見ていた。調べるうちに、どのような政治を提示しているかに関心を持った。

【１年、山口あいりさん】身の回りで選挙に関する話をする機会がないことが、若者の選挙に対する関心のなさの要因だと考えた。

（20日の講義から）

令和５年（2023年）　１月22日（日）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（14）～公立大学時事問題講義から
口蹄疫と新型コロナ

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽14

口蹄疫と新型コロナ

新坂　英伸（にいさか・ひでのぶ）報道部次長。２００３年入社。校閲部、日南支社、報道部、小林支局などを経て22年から現職。宮崎市佐土原町出身。41歳。

２０１０年４月20日に本県で発生が確認された口蹄疫は、児湯郡を中心に急速に広がり終息するまでに約４カ月かかった。県は感染拡大に歯止めをかけるため、独自の非常事態宣言を発令し、不要不急の外出自粛やイベントの延期などが要請された。宿泊施設の予約がキャンセルとなり、繁華街からは人の姿がなくなるなど、畜産関係者以外の県民も影響を受けた。

感染拡大の中で、深刻だったのは風評被害。宮崎市の農家は「ウイルスが付着している」とキャベツの出荷を断られ、経済的に打撃を受けていた。また家畜や飼料を運ぶ県西部の業者のトラックは、県外を走っていると石を投げられ、警察に通報されたこともあった。

同じような状況は、新型コロナウイルス禍でも起こった。宮崎市のスナックはＳＮＳ上にコロナにまつわる根拠のない情報が投稿され、店には批判の電話が相次いだ。クラスター（感染者集団）が発生した施設の職員は、濃厚接触者ではなかったものの、保育園に通う子どもは登園を拒まれた。誤った情報によって、生活に影響を受けた当事者は心を痛めていた。

本県はウイルスの脅威を度々経験している。目に見えないウイルスへの恐怖心や不安から冷静な判断力を失うことが、誤った情報の発信や行動につながると識者は指摘する。ＳＮＳが普及した現在は、根拠のない情報が流れやすい状況にあり、風評被害が起こるリスクは高まっている。被害を防ぎ、誤った情報に翻弄（ほんろう）されないためにも、メディアリテラシーを身に付けることが求められている。

冷静に情報の選択を

学生の感想

【１年、奈須成美さん】ＳＮＳを利用する中で、最初は一つだけだった臆測や意見が、事実として多くの人によって発信されてしまっていることを見たことがある。信じて良い情報なのか見極めることが重要だと改めて感じた。発信元の分からない情報に流されないように注意する。

【１年、柏田彩花さん】コロナ感染が初めて確認されたとき、口蹄疫と同じように風評被害や差別など、人の心を傷つけることがたくさんあったと思い出した。不安だからといって人を攻撃したり、誤った情報を信じて行動したりするのは好ましくない。

【１年、西永陽菜さん】マスクは健康に良くないなど、真偽が分からない情報をＳＮＳで見た。ウイルスは目に見えないからこそ、自分が感染するか分からないという不安に陥る。その情報が本当に正しいのか、自分なりに調べることが重要と考えている。

【１年、樋脇愛さん】ワクチンにチップが入っているといった情報に惑わされ、接種するか迷った。コロナの情報をＳＮＳで目にすることも多い。今は誰でも情報を発信できるということを考えて、判断することを心がけたい。

（20日の講義から）

令和５年（2023 年）　１月 28 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（15）～公立大学時事問題講義から
ネットメディアと新聞

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽15

ネットメディアと新聞

時任　達也（ときとう・たつや）デジタル企画部次長。1997年入社。総務部、事業部などを経て2012年4月より現職。えびの市出身。49歳。

伝統的なメディアである新聞も、デジタル化の波を受けてさまざまなサービスをインターネット上で展開している。なかでも新聞社の発信するニュースは信頼性が高く、今後もさらにニーズが高まっていくと思われる。

一方、新聞社が記事を配信している巨大プラットフォーマーやニュースアプリを運営するIT企業との収益の不均衡が課題となっている。記事への正当な対価という点で、双方の話し合いが引き続き必要になってくるだろう。

また、個人情報の保護を目的とする法律が国内外で制定されており、インターネット上で収集した情報の第三者への提供や、ネットワーク広告への個人情報の利用について厳しい目が向けられている。個人情報の収集や利用には制限が設けられ、閲覧動向や履歴を基にした追跡型広告は、

情報うまく活用して

次第にサイト内の文脈に即した「コンテクスト広告」に置き換わっていくと思われる。

個人においても自分と同じ意見が反響、拡大する「エコー・チェンバー」や、興味や関心のあるニュースや意見しか入ってこない「フィルター・バブル」など特有の現象を理解した上でネットメディアに接する必要がある。情報の発信元の特定や、適切な引用であるかを調べることもミスリードを防ぐ効果がある。

ニュースを受信し、SNSを通して拡散することで情報はさらに広がる。個人にも責任が伴うため、発信主体の確認などネット・リテラシーを高め、上手にネットメディアを活用してほしい。　＝おわり＝

学生の感想

【１年、猪野風音さん】正しい情報と同じぐらい誤った情報があるので、見分ける力が必要だと感じた。賢く生きるために見極める力が必要不可欠だが、最近は正しいニュースかフェイクニュースかの見分けが難しくなっているため、より一層気をつけなければならないと思った。

【１年、森楓華さん】デジタルメディアは、関心のある分野を見つけやすいので非常に便利だ。しかし、一部の意見やニュースしか入らない可能性がある。入ってくる情報に偏りが出てくるため、意識的にさまざまな情報を取り入れ、比較する必要がある。

【１年、宮澤功さん】発信する側は、デマやフェイクニュースを流さないようにしなければならない。さらに受け取る側も、その可能性があることを常に頭に入れた上で、利用しなければならない。

【１年、山口航史さん】デジタルメディアの功罪を知った。SNSでニュースを取得しているが、それを他のメディアのニュースと比較して確かめることをしていなかった。フェイクニュースや自分たちにとって都合の良いニュースがSNSには広がっているため、真偽を見極める力が必要だ。

（27日の講義から）

Ⅳ　資　　料

宮崎公立大学交流センター・凌雲会館施設利用状況

宮崎公立大学交流センターは、地域住民の生涯学習及び外国人留学生との国際交流の拠点を目指して建設されたものです。

交流センター内には、生涯学習や国際交流のための講演会等が開催できる多目的ホール、会議室、和室、交流ラウンジがあり、蔚山大学校や蘇州大学からの短期留学生の受け入れ行事や日本文化体験の場として使われるほか、一般市民向けの語学講座や学外団体による研修会など、学内外者が利用できる施設として広く活用されています。

一方、凌雲会館は、本学が開学 10 周年を迎えたことを記念し建設され、1 階が学生支援センターと学生支援課、2 階が地域研究センターになっており、主として学生や課外活動団体、本学の教職員及びそれらが関わる団体などが使用する施設です。

1　令和 4(2022)年度施設利用状況

施設名 ＼ 利用件数		利用件数	備　　考
交流センター	多目的ホール	113	
	会議室	128	
	和室	96	
凌 雲 会 館	会議室AB	4	
	共同研究室	151	
	IT教育支援室	－	随時学生に開放

2　行事等別の施設利用率

施設名 ＼ 行事等		学内行事 ＊1	講座等 ＊2	教員関連 ＊3	学外行事 ＊4	課外活動・学生使用
交流センター	多目的ホール	31.9%	7.1%	9.7%	29.2%	22.1%
	会議室	12.5%	0.8%	8.6%	62.5%	15.6%
	和室	12.5%	2.1%	2.1%	5.2%	78.1%
凌 雲 会 館	会議室AB	100.0%	－	－	－	－
	共同研究室	22.5%	63.6%	13.9%	－	－
	IT教育支援室	随時学生に開放				

＊1 学内行事：短期留学生研修、大学訪問等　　＊2 講 座 等：各種講座等
＊3 教員関連：授業等　　＊4 学外行事：他団体研修等
※令和 4(2022)年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、凌雲会館をオンライン授業の受講会場や就職活動(Web 面接)の為のスペースとして学生へ開放した。

令和４(2022)年度　地域貢献部会　開催実績

	開催日時	開催場所	主　な　議　題　等
第１回	令和４年４月 26 日（火） 10:30～11:45	凌雲会館 共同研究室	・令和４年度自主講座開設許可申請について ・宮崎公立大学公開講座等実施基準（新型コロナウイルス感染症関連）の改定について
第２回	令和４年５月 31 日（火） 10:30～11:30	凌雲会館 共同研究室	・令和４年度定期公開講座について ・令和４年度後期開放授業について
第３回	令和４年６月 28 日（火） メール送信	メール 審議	・令和４年度リカレント教育プログラム「ホテル接客英語講座」について
第４回	令和４年７月 26 日（火） 10:40～11:30	凌雲会館 共同研究室	・開学 30 周年に係る採択候補事業の実施計画作成について ・令和５年度リカレント教育プログラムについて
第５回	令和４年８月 30 日（火） 10:40～11:15	オンライン 会議	・【継続】開学 30 周年に係る採択候補事業の実施計画作成について
第６回	令和４年９月 27 日（火） 10:40～11:40	凌雲会館 共同研究室	・【継続】開学 30 周年に係る採択候補事業の実施計画作成について ・リカレント教育プログラム検討委員会（仮称）設置について ・令和４年度計画に係る進捗状況の入力について ・令和４年度定期公開講座のアンケートについて

	開催日時	開催場所	主　な　議　題　等
第 7 回	令和 4 年 11 月 29 日（火） 11:00～12:00	凌雲会館 共同研究室	・令和 5 年度定期公開講座について ・令和 5 年度開放授業について
第 8 回	令和 5 年 1 月 17 日（火） 10:00～11:45	凌雲会館 共同研究室	・令和 4 年度計画業務実績（案）、令和 5 年度計画（案）及び第 3 期中期計画暫定実績（案）の入力について
第 9 回	令和 5 年 3 月 1 日（水） 13:30～15:20	凌雲会館 共同研究室	・開放授業について ・令和 5 年度自主講座について ・令和 5 年度語学講座について ・令和 4 年度計画業務実績（案）及び令和元年度から令和 4 年度までの業務実績（案）の修正について

Ⅴ　付　　録

新　聞　掲　載　記　事　一　覧

	掲　載　日	掲　載　紙	見　　出　　し
1	令和 4 年 5 月 27 日	宮崎日日新聞	若者の選挙関心高めて 公立大「ライツ」委員委嘱
2	令和 4 年 8 月 28 日	宮崎日日新聞	平和願い避難民支援
3	令和 4 年 10 月 17 日	宮崎日日新聞	ウクライナ避難民駅で案内
4	令和 4 年 12 月 3 日	宮崎日日新聞	学生の立場でできることを
5	令和 4 年 12 月 7 日	宮崎日日新聞	災害危険箇所地域歩き確認 西池小児童

令和４年（2022年）　５月27日（金）
宮崎日日新聞社提供

宮崎市

若者の選挙関心高めて

公立大「ライツ」委員委嘱

長田一郎会長（左）から委嘱状を手渡される宮崎公立大選挙啓発部「ライツ」のメンバー

若者に選挙へ関心を高めてもらおうと、宮崎市明るい選挙推進協議会（長田一郎会長）は24日、宮崎公立大の選挙啓発部「ライツ」の学生28人を委員に委嘱した。3人が常任委員として同協議会の会議に参加するほか、インスタグラムを使った啓発活動などを通して投票率向上を目指す。

委嘱式は同大学であり、学生17人と大学や市選挙管理委員会の関係者が出席。長田会長が1人ずつ委嘱状を手渡し、「今年は参院選、県知事選などがあり、市の投票率向上に向けた啓発に積極的な協力をお願いします」と呼びかけた。

同部は2016年にサークルとして発足して以降、部員が同協議会委員の委嘱を受けている。今夏の参院選に向けては、投開票日の2週間前からインスタグラムで投票を呼びかけるカウントダウンを行う予定。部長で3年の草野楓さん(20)は「投票率が低い若者の意識を変えられるよう広報などを頑張りたい」と話していた。（甲斐延明）

県央

令和４年（2022 年）　８月 28 日（日）
宮崎日日新聞社提供

ウクライナ侵攻

来月ポーランド派遣

日本財団ボランティアセンター（東京）が主催する「ウクライナ避難民支援日本人学生ボランティア派遣」のメンバーに、宮崎公立大国際文化学科４年の中野すみれさん(22)が選ばれた。平和への強い思いを胸に来月、ウクライナの隣国・ポーランドに渡り、「折り紙などで子どもたちの心のケアにも取り組む」と意気込む。同センターによると、県内の学生の派遣は初めて。（２面参照）

平和願い避難民支援

「子どもの心ケアしたい」

宮崎公立大４年 **中野すみれさん**(22)

同センターは今年５月から計４回、学生ボランティアをポーランドの避難民一時滞在施設などに派遣。中野さんが参加する第５グループの14人は９月３～19日、同国を拠点に食料、物資の配布や管理、避難民の日常生活の支援を行う。

以前から国際協力に取り組んできた中野さん。４年になり、卒業論文の仕上げに向け忙しい毎日だったが、日々飛び込んでくるロシアのウクライナ侵攻のニュースから目を背けることはできなかった。

テレビに映る家をなくした人や、親とはぐれた子どもたちの姿―。「自分には何ができるのか」と思案していた折、知人から同ボランティアの話を聞き、参加を即決。語学力のテストや応募の理由などを問う選考を経て派遣が決まった。

北九州市出身の中野さんは、幼少の頃から海外への憧れがあり、そこでのボランティアに興味を持ったのは３年前。カンボジアで民家を建てるボランティアに友人から誘われ、内戦後、貧困に苦しむ人たちに接し、力になりたいと思った。以来、海外で住居建築活動を行う学生ボランティア団体「Ｓｔｅｐ ｔｏ Ｐｅａｃｅ」の運営に携わったり、休学してカナダで８カ月間の語学留学を行ったりしてきた。

活力の源は、平和への強い思いだ。「同じ人間として生まれてきて、平和に過ごせる人とそうでない人がいる。平和な日本にいるからこそ、そういった人たちの力になりたい」

卒業後は福岡県の国際物流会社への就職が決まっており、経験を積んだ後、将来は国際ボランティア団体への参加も思い描く中野さん。これまでの「集大成」として赴くポーランドでは、子どもたちと積極的に関わるつもりで、「折り紙を持って行く。子どもたちと一緒に遊んで、心のケアや良い思い出をつくる手伝いができれば」と話している。（中城佑平）

★「プレみや」にも掲載

平和への強い思いを胸に、ウクライナ避難民支援でポーランドに渡る中野すみれさん＝26日午後、宮崎市・宮崎公立大

令和４年（2022 年）　10 月 17 日（月）
宮崎日日新聞社提供

ウクライナ避難民 駅で案内

日本財団ボランティアセンター（東京）が主催する「ウクライナ避難民支援日本人学生ボランティア派遣」の一員としてウクライナの隣国・ポーランドなどで活動していた宮崎公立大国際文化学科４年の中野すみれさん（22）＝北九州市出身＝が約２週間の派遣を終え、先月帰国した。緊張した雰囲気の国境近くの駅で、乗り換えの案内などに従事し、当事者らと心を通わせる経験もした中野さん。「今でも先行きの見えない生活を送っている人がいることを知ってほしい」と訴えている。（５面参照）

隣国ポーランドでボランティア

宮崎公立大４年 中野すみれさん（22）帰国

「関心持てば現状変わる」

中野さんを含む学生ボランティアの14人は、９月３日に日本を出国。２チームに分かれ、ポーランドとオーストリアで約１週間ずつ活動し、19日に帰国した。

最も気を使ったのが、国境から約15㌔のポーランド・プシェミシル駅での支援活動だった。構内の案内や、避難民の荷物の運搬、水の配給…。駅は故郷を追われ、先を急ぐ人々であふれ、ピリピリした緊張感が漂っていた。

「案内するホームを間違えると、相手の人生を変えてしまう。失敗は許されない」。乗り換えの案内は特に重要な任務で、ボランティアであることを示す黄色のベストを着た中野さんらの周辺には、列車が到着する度、多くの避難民が集まった。

焦った様子で乗り換えの場所や時刻を聞かれるが、頼みの英語が通じない。中野さんは身ぶり手ぶりや翻訳アプリ、簡単なウクライナ語の指さしボードを使い、「なんとかコミュニケーションを取ろうと必死だった」と振り返る。

厳しい環境ではあったが、避難民との心の交流も生まれた。泣いていた男の子に、気休めになればと折り紙の手裏剣を手渡した。しばらくすると男の子がやってきて、折り紙の鶴とかぶとをくれた。ユーチューブで勉強したのだという。「つらい状況なのに、私のために折ってくれて、本当にうれしかった」

帰国後、ウクライナのニュースを見る度、知り合った人の顔が浮かび心配になるという中野さん。「遠い国の出来事だと感じる人が多いかもしれないが、少しでも関心を持ってもらえるだけで現状は変えられる」と話していた。（中城佑平）

★「プレみや」にも掲載

ポーランドのプシェミシル駅で避難民の荷物を運ぶ手伝いをする中野すみれさん（日本財団ボランティアセンター提供）

令和４年（2022年）　12月３日（土）
宮崎日日新聞社提供

学生の立場でできることを

子どもの貧困、性の多様性…

宮崎公立大サークル　社会問題取り組む

映画監督の佐野翔音さん（左）とパネルディスカッションで児童虐待についての議論を深めた宮崎公立大生ら＝２日午後、宮崎市・宮崎公立大（米丸悟撮影）

学生目線で子どもの貧困や性の多様性の理解促進といった社会課題に取り組もうと、宮崎市・宮崎公立大生による「フラットサークル」（後藤涼部長）が新たに発足し、熱心に活動している。2日は、同大学で開かれた児童虐待をテーマにした映画上映会に協力。監督とのパネルディスカッションを通し、社会問題への学生の関わり方を探った。

同大学の四方由美教授が主宰するゼミ「メディアとジェンダー演習」から発展し、本年度設立。サークル名は誰もが「フラット」な立場でいられ、「ふらっと」集まれる居場所づくりをとの思いを込め、1～4年生20人が所属する。

2日の映画「わたし、生きていいのかな」の上映会は県人権啓発推進協議会の委託を受けm20（綾町）が企画・運営。監督・脚本を手がけた佐野翔音（しょうと）さん（横浜市）とのパネルディスカッションでは、1年生2人が「映画に込めた思いは」「学生の立場でできることは」などと質問し、佐野さんは「支援者の思いを代弁し、現状を多くの人に知ってもらいたいとの思いでつくった」と説明。「大学生が、サークル活動で社会問題を考えていることが心強くうれしい。まずは地域の子どもにあいさつをして、顔見知りになってみては」と助言した。

サークルでは月2回、各自が関心のあるテーマの新聞記事などを持ち寄り、活動方針を決めている。8月には宮崎市で開かれた、性の多様性尊重の啓発パレードにも参加。今後は子どもへの食料支援も計画する。後藤部長は「学生として何ができるかを考え、地域に貢献していきたい」と話していた。（徳留亜弥）

★「プレみや」にも掲載

令和４年（2022年）　12月７日（水）
宮崎日日新聞社提供

災害危険箇所 地域歩き確認

西池小児童

宮崎市・西池小（875人、衣笠高広校長）の５年生が６日、地域の危険箇所や災害時の避難場所などを調べる「ストリートウォッチング」を体験した＝写真。児童99人が参加し、宮崎公立大の辻利則教授が開発したウェブアプリを活用しながら地域を巡った。

災害時に自ら行動できる知識などを身に付けてもらおうと毎年実施。中央西まちづくり推進委員会（徳満秀夫委員長）や、辻教授の研究室の学生約40人が協力した。

児童たちは県総合文化公園から同校まで、タブレットを手に歩いた。途中で損傷している歩道や津波避難ビルを見つけると写真を撮り「つまずいて危ない」「災害時避難場所」など音声も記録した。

横山亜虹（あこ）さん(10)は「地域の危険箇所や避難場所など、今日学んだことを災害時に生かしたい」と話していた。

地 域 研 究 セ ン タ ー 年 報
令 和 4（2022）年 度 第 15 号

発 行 日　：　令和 5 年 10 月
編 集 者　：　宮崎公立大学　地域研究センター
住　　所　：　〒880-8520 宮崎市船塚 1 丁目 58 番地
電　　話　：　0985-20-4772
Ｆ Ａ Ｘ　：　0985-20-4773
Ｕ Ｒ Ｌ　：　https://www.miyazaki-mu.ac.jp
Ｅ-Mail　：　mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

地域研究センター年報

令和４(２０２２)年度　第15号

宮崎公立大学